

防衛大学校同窓会機関誌

小原台だより



(大講堂前)

Vol. 11

平成16年1月1日
発行 防衛大学校同窓会

編集 佐古寿聰 多田紀幸

印刷 (株)エイコープリント



防衛大学校同窓会会長

渡邊 信利



全国各地で、また日本を離れ海外各地でご活躍中の同窓会員の皆様、明けましておめでとうございます。それぞれ輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年七月、岡らすも第十六代会長として、阿部前会長から防大同窓会会长職を引き継ぎました。防大創立五十周年を迎えたこの大きな節目の時期に、大役を仰せつかり、その責任の重さを痛感しております。皆様のご協力でございました。防大創立五十周年を終えたこの大きな節目の時期に、大役を仰せつかり、その責任の重さを痛感しております。皆様のご協

発生は、世界中の人々に、改めてテロの脅威撲滅と大量破壊兵器の拡散防止の必要性を認識させ、アフガン及びイラク戦争という事態にまで発展致しました。

また、北朝鮮の核開発の問題やテロドン・ノドンミサイルの大量配備は、近隣に存在する特異な独裁国家であるだけに、まさに我が国との安全にとって深刻な脅威となつております。

日本も「普通の国」になりつつあることは歓迎すべき事象です。
こうした一連の国内世論の好転は、「憲法違反の自衛隊」と言われ、「存在のための戦い」を強いられた時代を過ぎた者にとっては、隔世の感を覚えます。

今となつては、集団的自衛権の憲法上の解釈を変更しないで、空理・空論に明け暮れる永田町の論理こそが、時代遅れの最たるものかも知れません。國際的に應分の責任を果たすべき日本の立場、加えて北朝鮮危機への対応が切迫している現状に鑑み、憲法改正には時間を要するのであれば、早急に集団的自衛権の政府解釈の変更をすべき時機であると考えます。

国内外情勢の著しい変化や新しい脅威（テロリズム等）の出現により、自衛隊は、我が国と繁栄を守るた

めに、国際貢献活動など、多くのリスクを伴う広汎多岐にわたる新たな任務・役割が求められるようになります。

さて、冷戦時代が終焉し、イデオロギー対立の構造は影をひそめ、東西対立の時代には顕在しなかつた民族・宗教的対立が激化し、エスカレートの様相を呈しております。特に、二〇〇一年九月十一日米国での同時多発テロの

ために、国際貢献活動など、多くのリスクを伴う広汎多岐にわたる新たな任務・役割が求められるようになります。

このような転換期にあって、今日ほど、「職業軍人」として、国防の中核を担う防大同窓生の自学研鑽、切磋琢磨、そして大同団結が大事な時期はな

いと思います。

防大同窓生会員が一丸となり、自重自愛、同窓同学の絆を大切にしながら国防の任を全うしたいものです。

次に、同窓会活動について、直面している課題等について申し述べたいと思

取り組むべき課題の第一は、「財源の確保」です。即ちここ数年、危機的

状況を呈している会費収入の激減に歴止めをかけ、会費納入率の全般向上を図ることが緊急の課題です。

幸いに今年度は、関係者のご努力と

ご協力により、大幅に改善されつつあります。そのご尽力に対し、心から感謝申し上げますとともに、会費未納会員の自発的な納入を強く期待しております。

第二は、「年度事業の見直し」です。

同窓会としてやるべき事業を出来る限り厳選して、貯蓄からの繰入金に大きく依存している最近の年度予算の体質を改める必要があります。併せて「費用対効果」を勘案して事業のメリハリをつけ、また歳出の全般的な抑制にも努めて参りたいと考えております。今ままの状態で推移しますと、十数年で財源が枯渇状態に陥ることにもなりかねません。

第三は、「MCI事業の推進」(MCI : Military Cyber Institute の略)で

す。これは、五十年記念事業の未完成の大事業として、同窓会に申し継がれたものです。その目的とするところは、「日本の防衛に関する世論を正しく導くための情報を発信し、防大同窓生OBの経験及び知識を生かし、社会

的貢献をする」とされています。

趣旨に、異論を唱える人は誰もおりません。しかしながら「MCI事業」の内容（中味）については、抽象的な願望のレベルにあり、人によって考え方、イメージが異なるのが現状です。具体的な事業構想の確立と、その実現の可能性に関する検討は、今後の課題として残されております。そこで、先ずは、十五年度事業として決定された「防大同窓会ホームページ」を、年度末までに立ち上げ、試験運用を開始出来るようにしておきたいと思います。

同窓会は、会員を主対象とした同窓会の広報、会員相互の情報・意見交換、防衛関係資料等を掲載し、同窓生の融和団結を図つて参りたいと考えております。

このほかに、同窓会本部事務局の東京移転に伴い、やや疎遠となりがちな防大当局と学生達との連携を深め、同窓会活動の理解と協力が得られるように、「小原台事務局の強化」を図りました。

また、長（中）期的視点から検討を要する事項としては、「防大同窓会活動のあり方に関する検討」があります。

過去に防大同窓会のあり方について、「将来構想検討委員会」等を設置

して検討された経緯もありますが、その後同窓会をとりまく時代・環境も大きく変化しており、また約十年後には、同窓会員数及び会員の構成（退官会員と現職会員の比率）もほぼ一定になる

と見積もられます。

したがって、同窓会の長期にわたる

安定的活動を維持するために、プロジェクトチームを編成して、同窓会の組織、事業、財政基盤の在り方など全般で、先ずは、十五年度事業として決定

された「防大同窓会運営の施策に反映させた将来の同窓会運営の施策に反映させた」と考えております。

これらの検討に当つては、「同窓会の設立目的」「永続的活動基盤の整備」「在校生支援の重視」「現役会員や支部等活動の活発化」などを念頭に置ぎながら、慎重に討議を重ね、改善すべき

点は、大胆に改めたいと思つています。皆様の建設的なご意見等をお願い致します。

最後になりましたが、同窓会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

同窓会行事

期生会だより	小原台は今……	防大特集
第4・7・13・17・28期	会長年頭のご挨拶	中期事業
20	9	「防大同窓会あり方検討委員会」について(案)
16	2	MCI事業の平成十五年度の実施状況について……
17	2	北海道・東北・九州地域支部
24	2	北陸・東海・関西・広島地区支部
27	2	支部だより
34	2	同窓生アラカルト
35	2	同窓会会員名簿
35	2	第七回期別対抗ゴルフ大会
36	2	第六回期別対抗テニス大会
36	2	第五回期別対抗闘碁大会開催
37	2	顕彰碑献花式
37	2	平成15年度臨時代議員会
37	2	「同窓会会員名簿」追加申込みの受付け
37	2	会計報告
39	2	会費納入のお願い
40	2	期生会長・代議員名簿
41	2	防大同窓会総会のご案内

目次

小原台は今

西原学校長、
オーストラリアの
国防軍士官学校等視察



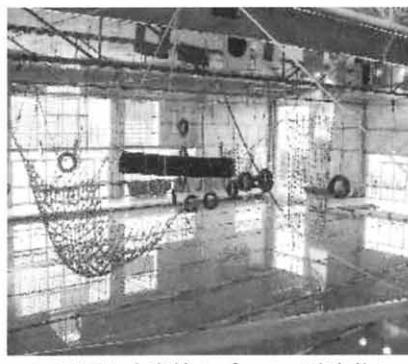
▲国防軍士官学校長Goldrick准将と

平成十五年十月六日（月）から同十一日（土）までの間、西原学校長が随行者防衛学助教授財津二等陸佐を伴って、オーストラリアの国防軍士官学校、陸軍・海軍の各士官学校、国防大学等の視察を行つた。

オーストラリアは、陸軍、海軍、空軍の各士官学校の他に軍種統合による国防軍士官学校を擁するというユニークな軍人教育体制をとつており、国防軍士官学校における教育システムや同校と軍種別

士官学校との連携等に関して、意見交換を行つた。

特に、国防軍士官学校は、防衛大学校と同様に陸海空の各士官候補生に対し、軍事教育、訓練及び大学教育を行い、士官候補生として相応しい資質と識能を付与している。軍種共通の軍事教育、訓練は国防軍士官学校が、軍種別教育訓練は



▲国防軍士官学校のプール・障害物トレーニング施設

▼同校の学生たちと



各軍士官学校が、それぞれ担当している。また、大学教育の分野は、国防省との協定に基づき国防軍士官学校の敷地内に教育施設を設置してニューサウスウェールズ大学が担当しており、同大学の学士号が付与される。

施設見学では、充実した図書館や学生食堂、屋内スポーツセンターを子細に見学した。また、学生舎内においては、居室の状況を見るとともに、居合わせた数名の学生とも言葉を交わす等学生生活の一端をつかがい知る機会を得た。同校の現在の全学生数は、陸・三八六名、海・一五二名、空・三五三名、他国・三十四名となっており、この内女子学生は、陸・六十八名、海・五十二名、空・六十九名、他国・三名と全学生の二割強となつてている。

学校長の訪豪間、在豪日本大使館付防衛駐在官北川一等海佐（防大二十六期）から、全般日程の終始を通じた随行により、豪国内移動、訪問先のアポイント確認、訪問先に関する事前の情報提供等の協力を受けた。

以下、三つのセッションの要旨と議長として参加した学生の所見を紹介する。

紀における軍隊」を統一テーマにした国際士官候補生会議（International Cadets Conference-ICC）が開催された。

参加者は、本校の学生の他、海外からオーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、インドネシア、イタリア、マレーシア、フィリピン、大韓民国、シンガポール、タイ、連合王国、アメリカ合衆国の十三カ国の士官候補生、また一般大学からは、青山学院大学、慶應義塾大学、東京大学の学生がそれぞれ参加した。

今年は、「二十一世紀における軍隊」を統一テーマとして、石塚 熟氏（元航空幕僚長）の基調講演に引き続き、三つのセッションに分かれ熱心な討議が行われた。



▲セッション討論風景

第一セッション…
テーマ「士官学校の現状と将来」

（議長三学年 日高 大輔）

【要旨】
各士官学校の教育面、訓練面、倫理面

平成十五年三月二日（月）～六日（木）、学生の国際的視野の拡大、語学力の向上及び諸外国と我が国の将来の安全保障につながる相互理解の促進に寄与することを目的として、本校において「二十一世

に関するプレゼンテーションを実施後、以下の二点について討議した。

- ①士官学校の教育において、時代の変化に合わせて変わつていく要素は何か
- ②士官学校の教育において、普遍的な要素は何か

士官学校の教育において、時代の変化に合わせて変わつていく要素は何かについては、英語教育の重要性、IT教育の重要性、士官学校における統合教育の示唆、士官学校における官民協力の重要性などを挙げた。

また、士官学校の教育において、普遍的な要素は何かについては、共通の規範や価値観を共有すること、軍隊文化を継承し、学生に植え付けることを挙げた。

【所見】

事前の勉強が役に立った。今回、会議を円滑に進めるために、参加者は十一月の後半から英語と日本語で勉強会を実施してきた。第一セッションは公共政策学科の渡井理佳子先生と外国人教官のエドワーズ先生に勉強会を支援していただいだ。

勉強会を重ねることで、防衛大学校が他の士官学校と比べてどんな特徴を持っているのか、他の士官学校や防大がどのような歴史をたどってきたのかを知ることができる非常に良い勉強になつたと思う。また、会話能力も勉強会を通じて向上したことは言うまでもない。

今年は例年以上にタイトなスケジュールを組んで準備をしたが、本番直前はバタバタするもので、海外士官候補生との

連絡調整、プレゼンテーションの準備、討議の構成作り、その他諸々の準備等に追われ、非常に慌しい日々を過ごした。

そんな準備の甲斐あつてか、本番ではそれほどの失敗もなく、スマートに会議を進めることができ、その点は良かったのではないかと思う。

今回のICCに参加したことは、防大生である我々のアイデンティティとは何か、今我々がすべきことは何かを改めて考える良い機会となつた。第一セッションのテーマである「士官学校の現状と将来」は、第二セッションと第三セッションのテーマである「理想の指揮官」、「政軍関係」と密接な関連を持つている。是非この三つのテーマについて自分なりに考えてみてほしい。それが、今後この防大での生活をいかに過ごすかを考えるきっかけになつてくれれば非常に光栄である。

最後に、一緒に会議に参加したメンバー達、支援していただいた教官や学生、実行委員の方々、どうもありがとうございました。来年度もICCが、より良いものになるように頑張っていただきたいと思う。

第二セッション..

テーマ「理想の指揮官」

(議長三学年 松崎 周)

【要旨】

今回の討議においては、以下の四点に絞り話し合つた。

- ①リーダーシップの原則
- ②過去の偉大な指揮官
- ③女性指揮官

④シナリオ

リーダーシップの原則については、主に戦闘中のリーダーシップについて話し合つたが、中には有事ばかりではなく平時におけるリーダーシップ論が大切であるという意見がでた。また、時代の変化に伴つて過去と現在でのるべき姿も考慮する必要があるという意見を得た。

戦闘時ばかりではなくいかに戦争を起こさないようにするかを考えるリーダーが必要である。

過去の偉大な指揮官については、前記の平時、有事を問わずにリーダーにとつて率先垂範は世界共通の要素であることが確認できた。また、リーダーは如何に恐怖を感じてもその感情をコントロールし部下や部隊の士気の低下を防がなければならない。この様な意見に各国間の相違はなかつた。

女性指揮官については、日本側が仕事と家庭のどちらを優先すべきかという点を提案したのに対して、仕事と家庭を両立させるのはあたりまえであるという海外参加者の反応があつた。何故日本人は家庭を優先させるために仕事を止めなければならぬのかについて海外士官候補生は非常に疑問をもつていた。また、物事を女性という性差でとらえるのではなく、一人の人間という個人差としてとらえてほしいという女性参加者からの意見がでた。

最後に、今まで話し合つた理想の指揮官像を基に、具体的なシナリオを想定し、この場合にどう判断するかを尋ねた。想定に対して、上司の命令は絶対服従であ

り、たとえ殉職しようともそれは名誉の死であるという認識が強いことがわかつた。また、部下の不正を発見した場合は、上司に報告し事態が大事に至る前に対処すべきであるという意見が大半であった。

本セッションにおいては海外士官候生、本科学生共に活発な意見交換が行われ、討議を通して各自が大きく成長非常に有意義な会議であった。

【所見】

三月九日早朝、十三カ国からの士官候補生を乗せたバスが、それぞれの思いと共にここ、小原台の地を去つていった。

思い起こせば今回のICCに議長としての参加が決まってから早くも半年が過ぎようとしている。しかしこの半年は早々容易に経過したわけでは決してない。毎晩遅くまで勉強会を実施し、ICC期間が迫つてくると休日を返上してまで作業、勉強等を実施したことでも多くあつた。

多くの困難とそれ以上の努力がそこには確実に存在した。針原、吉村、北井、清水、全員の努力が。彼らは今回のICC参加を熱望しており、彼らの勉強への取り組みの姿勢は私には何よりも嬉しいものであった。

多くの困難にめぐり合われたとき、彼らは助けの手を差し伸べ、彼ら一人一人もまた皆の助けを必要とし、支えそして支えられて日々成長していく彼らの様子が私にはわかつた。

また、士官候補生が到着してからも全員積極的にコミュニケーションを図り、

諸外国の実情や意見を多く吸収し学んでいた。様々な意見をぶつけ合い自分の見識を高め人間として大きく成長した。ICCは、とかく会議自体に目が行きがちであるが、ICCを通して我々の中に完成したものは、このような国際交流を通じての、「良好な人間関係」と「広い見識」ではないだろうか。

この良好な人間関係について、ある人が今回の親善パーティー中に私に次の様に言つたことを私は忘れない。「この様に多くの国々の人と仲良くなつて、私が一その国と戦争をするようなことになつたとき、一番初めに思いつくのはその人のこと。そう思つたら戦争なんて起らなうと思います。」

最後とはなつたが、今回の素晴らしいICCに参加することができ、校長を始めとするICC関係各位、河野教官、ショーン先生、今泉教官、村井教官、そしてICC実行委員とエスコート、第一、第三セッションの議長に第二セッションを代表して感謝の意を伝えたい。

第三セッション…

(議長三学年 高橋信一郎)
テーマ「政軍関係」

【要旨】

以下の四つのトピックに分けて討議を行なった。

- ①歴史 ②理論 ③課題 ④解決策

シリアンとミリタリーの関わり方が焦点となつた。結論として、現在の国際情勢を踏まえ、シリアンとミリタリー

がより密接なつながりを持ち、お互いを理解しあい、共存していくことが大切である。

【所見】

素晴らしい仲間と巡り会えたことに感謝している。だが、もつと英語を含め勉学に頑張らなくてはと感じた。

不安も喜びも悲しみも楽しみもすべて弾けた。思つていたより本番はあっけなかつた。相当の久保田先生が言つてた通りだつた。あまり終わつたという感じはない。充実感も満足感も湧いてこない。それはなぜだろう?心がついていつていないのかもしれない。あまりにもいろんなことが自分の中を通り抜けていく、心がそれについていていないのかもしれない。一番納得してないのは自分なのだ。周りに認められたからやるんじゃない。他の誰のためでもない、自分がどこまで大きなところで通用するのか試したい。

いつかまたこのようなチャンスを物にすることができるよう今はがんばらなくてはならない。

ジョン・ケビン・コナン、サイモン(第二セッションの海外参加者)、みんなナイスガイでとてもいい人達ばかりだった。見てる所が違う気がした。みんな私にはない何かを持つている。

最後に、久保田先生、クレイン先生、ウイリアムズ先生をはじめ、私達を支援してくださいました。澤山の皆様、まことにありがとうございました。

「研究室紹介」

防大における 国際法関係教育

国際関係学科教授 真山 全

はじめに

「研究室紹介」ということで今般執筆依頼を受けたが、社会科学系二学科(公共政策学科及び国際関係学科)では研究室ということを意識して仕事をすることはない。そこで、「研究室紹介」ながら、防大の国際法関係の教育について記すことしたい。

(一) 科 目

一、本科における国際法教育

防大では、本科全学生に少なくとも二単位の国際法科目の履修を要求している。理工系の学生にもこれを課している大学は我が国では希であるが、防大が士官学校・兵学校としての性格を併せもつてること及び本科学生任官後の任務を考えてのことであると思われる。具体的には、人社系学生は一年次において、理工系学生にあつては三年次においてそれぞれ国際法の概略を二単位科目として学ぶ。人社系と理工系の二単位科目の国際法の講義内容に差違はない。さらに、国際関係学科学生は、国際法(四単位)や国際機構論を勉強することができる。加えて、防衛学教育学群では国際人道法の講座が

ある。もとも、教育内容は、「自衛官や防大学生のための」国際法なるものがあるわけではないから、一般大学と同様座が別途設けられているのは、おそらく、一九四九年のジュネーヴ諸条約が「軍事教育の課目中」に「この条約の研究を含ませることを約束する」と規定しているからと考えられる。

(二) 教 官

国際法関係の教官は、国際関係学科では新進気鋭の佐藤宏美教官(主たる研究対象・国際責任、国際刑事法)と小職(同・海戦法規、国際刑事法)、防衛学教育学群のベテラン永澤勲雄教官(同・国際人道法、軍縮法)の三名である。驚くべきことにというべきか、公務員であるから当然というべきか、国際法関係教官採用その他で学閥の要素が作用することが防大ではない。一般大学では、出身校その他で各種閥が形成されることが少なくなく、そのこと自体またことに興味深い研究対象であるが、我々にはこれがない。この点非常に居心地のよいところである。

国際関係学科の上記二教官は、勿論本科卒業研究論文指導を担当する。通常、四名程度の卒業研究学生があり、常、戦争法や海洋法を選択する者が多い。結構難度の高いテーマを彼等は選択するから、こちらも指導に努力を要するが、一番痛いのは図書資料の不足である。図書館関係者の努力にもかかわらず、人社系学科創設から相当たつている

けれども、法学関係図書、特に内外の大学紀要等定期刊行物がなお不足している。ただ、二〇〇四年度から関係者の非常な尽力によりLexis/NexisとWestlawという法学関係データベースが導入されることとなり、紀要の不足は相当補われよう。この二種を同時に導入するにはかなりの英断で、こうした努力が継続されることを希望している。

二、総合安全保障研究科における国際法教育

(一) 科目

総合安全保障研究科の国際法関係科目には、戦争法や集団安全保障機構論などがある。戦争法とはかなり刺激の強い呼称であるが、武力紛争法や国際人道法と今のところ同義である。集団安全保障機構論では、国連その他の平和維持機能を扱う。なお、大学院レベルで戦争法を独立の講座として持つているところは、小職の知る限り我が国では他にない。これは小職の専門分野であつて、こうした講座のある教育機関にいることは幸運であるといえよう。

(二) 学生と教官

本研究科定員は二十名で、例年二、三名の陸海空自衛官が国際法をテーマとして修士論文を執筆し、佐藤教官と小職がそのお手伝いをしている。彼らのテーマは、戦争法、国際刑事法、海洋法などである。最近、陸海空自衛隊において国際法研究の必要性が従来よりも一層強く認識されるようになつたのは、御同慶の至りである。陸上幕僚

監部法務関係者や小平学校がとりわけ熱心で、一般大学大学院法学研究科と防大研究科に交互に学生を派遣するようになつた。こうした諸官によつて、将来、陸上自衛隊では部隊の行動を支援する強力なリーガル・アドバイザーチームが形成されるであろう。

軍事的には非常に強力というわけではない我が国にとり、武力紛争時の行動の法的正当性を巡る争い、つまり、「国際法の戦い」に勝利することは重要である。先の大戦において多数の国際法違反行為を行つたため、関係諸国国民に重大な損害を与えた、我が国の名誉は著しく損なわれた。再度同様のことが生じれば、取り返しがつかない。国際法を学んだ研究科学生諸官に期待するところは大きい。

また、三年ほど前から、海上保安庁が学生を派遣するようになった。彼等のなかにも国際法を専攻するものがある。彼等は、法執行機関の要員であるから、軍の行動に関する国際法規則を詳細には知らない。しかし、海上警察は、一般に海軍と紙一重の活動をし、おそらく、海上警察機関の船艇は武力紛争時に攻撃目標になるのであろうから、それを知る必要がある。彼等の勉強振りも良好で、自衛官学生よりも法的素養がある場合が少なくない。

おわりに

今後も、本科及び研究科学生の国際法教育に微力であるが努力したい。各位の協力をお願いするものである。

平成十四年度 TOEIC試験について

平成十四年度第九回本科学生対象TO

EIC試験が、一月十五日に実施された。受験者数は一六四四名、欠席者は十二名であった。

学生達の真摯な取り組みは、全体の平均点が、昨年度から十三点もアップしたことに対応されている。なかでも、リスクシングの平均点が昨年度より十点以上も上がったことなどは喜ばしいことである。

一六〇〇人以上が団体受験する試験で、平均点をこれだけ上げることは並大抵のことではない。日ごろの学習の成果が着実に身を結び、糧となっていることは確かなようだ。

特筆すべきは、五名の学生が九六〇点以上、十三名が八〇〇点以上、さらには四十二名が七〇〇点以上のスコアを出している。来年度はこのスコアを超えるよう各学生の努力を期待したい。

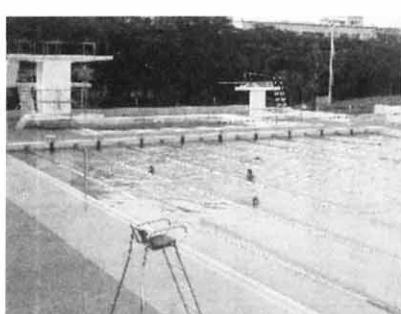
競泳プール改修完了

防衛大学校の競泳プール（屋外）の本体が、改修を終えオーブンした。

新競泳プールは、八月三十日付をもって既存のプールに引き続き、日本水泳連盟から五十m国内基準競泳プール（五十

m一般プール）として公認された。

F R P 製のプール本体は、縦五十m、横二十五m、水深一・三五m～一・五五mとなつた。改修前に比べ、本体の短辺が約五m拡長され、水深が全体的に十五cmずつ深くなり、各コース幅も二・五mと広くなつた。



▲ 50m国内基準競泳用として公認された防大プール

この改修により水深が深くなつたため、従来に比べより安全にスタート練習（飛び込み）ができるようになり、また、コース幅の拡大により同一コース内を複数の泳者が安全に回泳できるようになつた。更にペール短辺が二十五mと拡長されたため、状況に応じて短辺方向での練習・タイム計測等も可能になつた。

一方、機能面での充実のみならず、美観的にもすばらしく、また、各種設備も大変使いやすく申し分のない施設となつた。今後、本校の水泳教育・訓練が安全かつ効果的に実施できるようになつたばかりでなく、他大学との交流試合や水泳記録会等でも広く活用されるものと期待している。

なお、周辺地域の団体等へのプールの貸し出しは、屋外プール周辺の整備が完了する平成十六年度から実施する予定。

校 友 会 活 動

防大、全日本カツター競技大会 三年ぶり十三度目の優勝

短艇委員会 主将 四学年 藤原 寛司

さる五月二十四日（土）、横須賀市走水沖において行われた第四十七回全日本カッター競技大会において、我々防衛大学短艇委員会は、昨年、一昨年の雪辱を晴らし、三年ぶり十三度目の優勝、「權立て」の栄光に浴することができた。

大会に向けて再び日本一の栄冠を勝ち取るべく、クルー一同、臥薪嘗胆・不惜生命の精神で練習に励み試合に臨んだ。

大会では予選・決勝ともに、クルーは防衛大学校の学生代表として、宿敵海上保安大学校をはじめとする他大学を圧倒する素晴らしいとう漕をみせ、「防大魂、ここに在り」を示した。

このような成果を挙げることができたのは、部員はもちろん、先輩方、大会運営にご尽力くださった指導官の方々、応援団リーダー部をはじめ声援を送つてくれた学生、皆様のお力添えの賜物と感謝しております。

「断じて行えは鬼神もまたこれを避く」の言葉を胸に、防衛大学校短艇委員会は二連覇にむかいます。今後ともご指導・

ご声援のほど宜しくお願ひ致します。

全国国公立大学対抗相撲大会 防大相撲部団体戦二十年ぶりの優勝

主将 四学年 斎藤 拓也



▲西原学校長と相撲部団体戦出場メンバー
(左からブヤンバト、光永、中澤、藤田、バトサイハン)

期待どおりの実力伯仲の好試合が展開された。

我が防大相撲部は、団体戦において第一回目の大会に優勝したのみであり、その後は十九年間優勝にあと一步というところで涙を飲む結果となっていた。今年は我が防大相撲部が主管校という事もあり、何が何でも優勝を勝ち取りたいところであり、毎日血のにじむような稽古に励んできた。

団体戦において我が防大相撲部は、先鋒バトサイハン（四学年）、次鋒 藤田励生（二学年）、中堅 中澤和臣（三学年）、副将 ブヤンバト（三学年）、大将 光永安孝（四学年）のメンバーで試合に臨んだ。

初戦、琉球大との試合において、次鋒藤田は琉球大の一四〇kgもの体格を持つ山城選手とあたるが、見事な土俵際のうつちやりにより快勝した。勢いに乗つた

我が防大は次々と対戦校を撃破、昨年度優勝の東京大学にも四対一で勝利した。また、副将のブヤンバトは突っぱりが冴え渡り、次々と対戦相手を土俵の下に撃沈させ、七試合中全勝するという快挙を成し遂げ、敢闘賞を受賞した。団体戦を振り返ってみると防大相撲部の結果は七戦中六勝一敗で見事二十年ぶりとなる優勝を勝ち取った。

個人戦においては、我が防大相撲部は参加九人のうち八人が予選リーグを勝ち抜き決勝トーナメントに出場する。中でも活躍したのは藤田と中澤の二名である。藤田、中澤は順当に勝ち進み、なんと準々決勝において防大同士の対決になりました。激しい攻防の末、送り出しが炸裂し

藤田に軍配が挙がる。続く決勝戦において昨年度個人準優勝の東京大の大山選手と戦い、甲乙つけがたい試合に会場が騒然とする。そんな中、大山選手の巨漢から繰り出される押し出しにより藤田は土俵の外に。結果としては個人戦において、我が防大は藤田準優勝、中澤が第三位となる好成績を残した。

本大会は、我が相撲部にとつて今年度初めての大会であり、まだまだ始まりでしかない。これからも日々稽古に励み邁進して、ますます成長していく防大相撲部をよろしくお願いします。

大会成績

団体戦

優勝 防衛大学校
準優勝 東京大学

第三位 名古屋大学

個人戦（男子）

優勝 大山 信（東大）
準優勝 藤田 励生（防大）

第三位 中澤 和臣（防大）
栗山 和之（名大）

個人戦（女子）

優勝 鵜飼 恵美（名大）
準優勝 狩野 愛（東大）

第三位 村木 泉美（京大）
中本 光架（広大）

新人戦
優勝 與世田卓磨（琉大）
準優勝 岸根 翔（名大）

第三位 鈴木 博之（名大）
山本 芳治（京大）

ヨット部活動概要

我々ヨット部クルーではクルージング＆レースを中心とした活動を行っています。

クルージング

- 五月 東京湾横断クルージング
(千葉県 保田にて新入生歓迎会)
- 八月 夏季クルージング
(相模湾を中心に熱海・伊豆
大島・新島等)
- 十一月 横浜クルージング (予)
(ベイブリッジを下から見れる!)
- 不定期 ナイトクルージング
(都会の夜景・満天の星空・
夜光虫の群れ)

レース

National

- 全日本学生外洋帆走連盟レース
各種マリーナ主催レース
- 社会人ヨットクラブレース
- International
- イタリア海軍士官学校招聘レース
(イタリア)
- 世界学生ヨットレース (フランス)

特徴的なのが世界大会 (イタリア・フランス) に出場できると言う事です。全国大会 (国内) は勿論の事、全世界を舞台に広く活動を実施し、同時に国際交流を深めることもできます。

通常、こうした各種イベントにむけてクルーウーク練習を実施し、あわせて艇整備も実施します。

他大学との交流、さらに社会人プロセイラーとのレースを通じて、より高いシーマンシップの涵養を目指します。また、小型船舶免許講習会等を実施しており、部員は一級もしくは四級ライセンスを獲得できます。

年間概要

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 四月 | イタリア遠征 |
| 五月 | 新入生歓迎会 |
| 八月 | 夏季合宿 夏季クルージング
熱海ランデヴー 等 |
| 十月 | 横浜クルージング (予) |
| 十一月 | 横浜クルージング (予) |
| 十二月 | 年末艇整備 冬季合宿はありません |
| 一月 | 一学年デビューウー戦 (予) |
| 三月 | 納会 (OB・顧問との懇親会)
フランス予選(全国大会)春季合宿 |



▲復路の第一走者(六区)として、デッドヒートを繰り広げる岡本学生 写真左端



▲沿道から熱い声援を送る制服姿の防大生：右端岡本学生

新春の箱根駅伝復路を走つて

陸上部 三学年 岡本 英伯

イタリア遠征

イタリア海軍士官学校とピサ・フィレンツエに程近リヴォルノ市が共催するこのレースは今年度で十九回目を迎えた。我々は一九九九年よりこの国際レースに参加を果たし、今年で四回目の出場となる。

約二十余りの国の士官候補生がともに技を競う「J／24クラス」では一般参加者・プロレーサーを含め、六十以上の艇が一斉にスタートする。他にもディンギー各種・メガクルーザーなどの多数のレースが開催されている。

世界学生ヨットレース (フランス)

昨年十月末に行われた箱根駅伝予選において、残念ながら防衛大学校としては出場を逃したが、今回新たに設けられた関東学連選抜チームの一員として私が箱根駅伝第六区に選ばれ、憧れだった箱根路に立つことができた。

復路スタートの六区は全長二十・七km、高低差約八〇〇mを一気に下る通称「山下り」の高速区間。前日の冬晴れから一転、夜明け前から降り出した雪はスタート前には道路を白くするまでになっていた。そのためこれまでにない緊張に輪をかけ不安がよぎったが、現地に駆けつけてくれた応援団リーダー部からエールを受け、いっきに気合いが入った。

各國の士官候補生とのレース・共同作業・そして時には抗議 (プロテスト) を通じ、英語・伊語で主張し合うことで、結果として交流を深める事もできた。

来年は八回記念大会です。今度は防大創立五十周年の記念の年に、四十一年ぶりに防衛大学校のユニホームを着て箱根駅伝を走れたことは学校関係者、OB、そしていろいろな人に支えられ実現できたことと思っています。本当にありがとうございました。

来年は八回記念大会です。今度は防大創立五十周年の記念の年に、四十一年ぶりに防衛大学校のユニホームを着て箱根駅伝を走れたことは学校関係者、OB、そしていろいろな人に支えられ実現できたことと思っています。本当にありがとうございました。

平成15年度運動系校友会活動結果及び部員数状況

15.12.2現在

校友会名	成績		部員数 男子	部員数 女子	校友会名	成績		部員数 男子	部員数 女子
	男子	女子				男子	女子		
応援団リーダー部	開校記念祭リーダー公開	15	銃剣道部	全日本青年大会 団体準優勝	34	7			
短艇委員会	全日本カッター競技大会 優勝	69	全日本学生選手権大会 団体3位						
バスケットボール	男子 秋季関東リーグ戦 4部19位	43	7	週末ライト訓練実施	14				
	女子 春季神奈川リーグ戦 2部昇格			秋季関東学生リーグ戦 7部4位	23				
柔道部	関東学生柔道大会出場	36	4	関東大学トーナメント 4部昇格	56	1			
ラグビー部	秋季関東大学リーグ戦 3部2位	123		東日本学生リーグ戦 2部4位	21				
サッカー部	神奈川県知事杯 準優勝	67		国民体育大会出場 準決勝進出	28				
剣道部	関東理工系学生選手権 男子準優勝	65	11	男子 秋季関東学生リーグ戦 2部3位	37	12			
空手道部	東日本大学空手道選手権 男子ベスト16	75	4	女子 秋季関東学生リーグ戦 3部6位					
	秋季関東リーグ戦 男女共に2部優勝			八甲田、山梨、奥秩父雲取山周辺での活動	16				
	全国国公立大学空手道選手権大会 男子準優勝			日本選手権大会	14	2			
バレーボール部	男子 秋季関東リーグ戦 4部8位	38	12	個人Jr.の部 優勝 2年桜井、3位 3年伊内					
	女子 秋季関東リーグ戦 6部昇格			秋季神奈川7大学リーグ戦 6位	38				
卓球部	秋季関東学生リーグ戦 5部4位	22	2	全日本学生演武会出場	50				
陸上競技部	関東理工系学生競技大会 男子団体2位 女子団体4位	46	5	東日本学生選手権大会 団体7位	28	8			
硬式庭球部	男子 関東理工科リーグ戦 7部2位	39	7	秋季南関東リーグ戦	34	6			
	女子 関東理工科リーグ戦 8部3位			男子1部2位、女子2部5位					
硬式野球部	神奈川秋季リーグ戦 2部優勝	38		全日本学生大会 団体演武優良賞	43				
射撃部	秋季関東学生ライフル選手権大会	20		関東学生大会 団体演武最優秀					
	団体2チーム、個人等で全日本学生大会へ出場			関東学生リーグ戦	26				
山岳部	針ノ木、槍ヶ岳、谷川岳、前穂高等登山	7	1	フルーレ 3部昇格、サーブル 2部5位、エペ 2部4位					
水泳(競泳)部	東部国公立大会 男子6位	36	7	全日本大学対抗選手権大会 団体17位	19				
水泳(水球)部	関東学生リーグ戦 3部5位	21		全国国公立対抗大会 団体優勝	16				
ハンドボール部	秋季関東学生リーグ戦 5部8位	25		東日本学生リーグ戦 2部6位					
アメリカンフットボール部	関東学生リーグ戦 2部Aブロック	85		秋季関東大学リーグ戦	23	7			
ヨット(小型)部	関東学生選手権秋季大会 470級18位 スナイプ級12位	19	1	男子 4部6位、女子 4部昇格					
ヨット(クルーザー)部	イタリア海軍兵学校・リボルノ市共催国際レース 士官候補生の部 6位	7	2	自衛隊全国大会出場	22	1			
				開校記念祭記念式典・観閲式	40	8			
				横須賀開国祭	47	3			



▲図書館 吹き抜けと休憩室

記念事業報告

記念事業委員会

元事務局長 田 村 鞄 利

一、全般

昨年の「小原台だより」で記念事業の実施成果を記念特集号として会員の皆様にご報告して以来、記念事業委員会は、醸金者の皆様への記念品の発送に努力を集中するとともに平成十五年四月二十一日付で事業会計を決算し事業会計決算書として取り纏めました。これらの作業と並行して委員会活動の諸記録を総合整理して、平成十五年六月二十日の同窓会臨時代議員会において委員会としての最終報告をさせていただきました。

後に述べます一部の継続事業等については、必要事項を同窓会本部に申し送り、七年有余に亘った記念事業委員会の任務を終了して、平成十五年六月二十七日に委員会を解散いたしました。

全会員の皆様へのご報告は、時期的に大層遅くなり申し訳ありませんが、この「小原台だより」の場において、記念事業終了に伴う佐久間委員長からの会員の皆様へのお礼のご挨拶と、昨年六月の代議員会で最終報告しました内容のうち必要な事項を要約して皆様にご報告させていただきます。

二、記念事業終了に伴う 佐久間委員長挨拶

平成七年十一月、横須賀の芸術劇場で開催されました防大同窓会総会において、防大創立五十周年記念事業を同窓会が行なうことが決定されて以来、長年の歳月を経て記念事業の終了を御報告するに至りました。

記念事業委員会と致しましては、継続事業を除いて計画した事業を実現できたと考えておりますが、委員会が与えられた任務を全うできたかどうかということは、私達自身でなく、任務を示された同窓会が判断されるものと認識しております。

委員会発足以来、同窓生の皆様から賜りました御支援、御協力に重ねて感謝申し上げ、母校と同窓会の将来の発展を確信して、任務終了の御挨拶とさせて戴きました。

三、委員会活動総括

(一)記念事業の全活動を要約して総括したもののが、別表第一「記念事業委員会活動経過の概要」であります。

その一つは、申すまでもなく事業の実施を可能にして戴いた同窓生の皆様から寄せられました浄財であります。一億二千万円の募金目標は達成され、計画事業の実現のみならず、将来に向けた同窓会活動の足掛かりを築くことができました。

(二)第二段階(事業の計画段階・事業構想の具体化と事業計画の概成)

①一段階・事業の構想段階(H七年度)

(H八年度)

基本構想の決定と趣意書に基づく募金

に対しまして心から感謝申し上げます。

第二は、この記念事業に御協力戴きました。

した部外の関係者の方々から御好意であります。モニュメント制作をはじめこの事業に携われた方々は、防大の記念事業に協力できることを光榮であると述べられ、文字通り私達の仲間として、全力を挙げて事業に取り組んで戴きました。その御厚情は、決して忘れてはならないと感じております。

第三の力は、記念事業委員会のメンバーの長期にわたる真摯な努力であります。各委員は、陸海空及び世代の違いを超えて、共通の目的に向かって、名実共にボランティア精神をもって、それぞれの任務を遂行して戴きました。その委員諸兄の活動に、私は深い感動を覚えるとともに、共にこの事業に従事してきたことを幸せにまた誇りに思つております。

委員会発足以来、同窓生の皆様から賜りました御支援、御協力をいたくために趣意書として取り纏め、平成九年から募金活動を開始しました。

当時は、同窓会本部も防大から市ヶ谷に移転した直後で、しかも同窓会名簿も整理されていない時期で、会員名簿の作成から着手しましたが、趣意書を発送しても約1/3が返送されてくるような状況で、会員の皆様からお寄せいただいた醸金の集計も全て手作業で整理するしか方法もなく、担当委員には大変なご苦労をしていただきました。

あらためてこの記念事業を振り返って見ますと、大きく次の三段階で事業に取り組んだことになります。

①一段階・事業の構想段階(H七年度)

(H八年度)

(三)第二段階(事業の計画段階・事業構想の具体化と事業計画の概成)

③三段階・事業の実行段階(H十三年度)

(H十五年度)

記念事業実施計画の作成と事業の実行

(二)第一段階(事業の構想段階・基本構想決定と募金活動開始)

平成七年十一月十一日の横須賀芸術劇場での同窓会総会で「記念事業を実施する」との同窓会の基本方針が決定され、佐久間委員長をヘッドに実行委員会の組織と事業の検討に着手しました。

平成八年に骨格となる「記念事業基本構想」を決定し、全会員に記念事業へのご理解とご協力をいたくために趣意書として取り纏め、平成九年から募金活動を開始しました。

当時は、同窓会本部も防大から市ヶ谷に移転した直後で、しかも同窓会名簿も整理されていない時期で、会員名簿の作成から着手しましたが、趣意書を発送しても約1/3が返送されてくるような状況で、会員の皆様からお寄せいただいた醸金の集計も全て手作業で整理するしか方法もなく、担当委員には大変なご苦労をしていただきました。

防大創立50周年記念事業委員会の活動経過の概要

別表第 1

方において事業を検討しながら募金活動を見極めるまさに「イタチゴッコ」でしたが、平成十年末に募金目標を一億二千円に確定してようやく事業規模と各事業構想の輪郭が決まりました。じごは、各事業構想を逐次に具体化しながら平成十二年末には事業計画として取り纏める段階にまで至りました。この間、募金活動も平成九年度及び平成十年度更には平成十二年度と大きくは三回、補足の募金活

動をいれると合計五回の募金活動を実施したことになります。

しかししながら、平成十二年八月頃から顕在化した一部会員による反対行動が、記念講堂に設置するステンドグラスの原画作成を早い段階からお願いしておりました平山画伯を最終的に断念する事態になりました。発展し、委員会が当初から計画してきた記念事業の柱がなくなり、委員会にとりまして唯一の大きな挫折となりました。

四 第三段階（事業の実行段階…記念事業実施計画の作成と各事業の実行）

幸いなことに、新たに平松画伯というすばらしい方に巡り会い、そしてそれまでステンドグラスの制作準備に携わっていただいた方々の力強いご支援とご協力をえて、至短期間に当初計画の通りに記念講堂に設置できましたことには感慨無量なのがあります。

このように糸余曲折はありましたが、委員会は平成十三年春、事業計画に新たに一〇〇周年への植樹ともいえるM C I事業を提案することを加えて、更に記念行事の実施要綱を定めた「記念事業実施計画」を完成して、記念事業実行の準拠が全て整のったのは平成十三年末であります。

この過程の中で、平成十三年四月に、委員会も事業の計画段階から実行の段階

このように糺余曲折はありましたが、委員会は平成十三年春、事業計画に新たに一〇〇周年への植樹ともいえるM.C.I.事業を提案することを加えて、更に記念行事の実施要綱を定めた「記念事業実施計画」を完成して、記念事業実行の準備が全て整のつたのは平成十三年末でありました。

に入るとの認識のもとに委員会組織の再編を行い、また同窓会本部も記念事業実

行組織を編成する運びとなり、同窓会本部と委員会との任務分担も明確になり、じご一体となつて記念行事をはじめとする各事業をほぼ計画通りに実行してまいりました。

(五)記念事業は同窓会の鼎の軽重を問われる大事業と認識していましたので、全て委員会での審議を中心に推進してきました。この会議には、委員会メンバーの他に同窓会長をはじめ本部の主要役員及び防大からは総務課長と施設課長の参加をいただき、記念事業に関わる全ての事項をきめ細かく審議し決定すると共に必要な調整を実施しました。

委員会の開催も実に四十六回になりましたが、事業の実行段階の平成十三年度以降は、ほぼ一回／月のペースで委員会を開催しないと間に合わない状況で、委員会での審議も毎回四～五時間にも及びましたことを申し添えておきます。

又、防大当局と委員会及び同窓会本部が密接に連携して取り組んできたことが成功の重要な要因であります。

平成八年五月に最初の調整会議を防大で実施して以来、防大校長を交えた会議も十回にも及びました。更に、各担当の事務レベルにおいては交通費も自分で小原台まで再三足を運んでいたきました。

(六)別表第一・記念事業委員会活動経過の概要

四、事業会計決算報告

金及び使用に当たり厳正に会計を処理する。

(一)平成十五年六月二十日の代議員会で会計担当委員から事業会計決算の最終報告がなされ、監査結果報告とあわせ承認されました。各会員特に醸金者の皆様には、代議員会に報告しました事業会計決算報告書を更に要約して、「別表第二・記念事業決算報告」として掲載し、その概要を報告させていただきます。決算報告の細部内容資料は、MCI事業で新たに出来る同窓会ホームページに掲載しますのでご参照ください。

(二)記念事業委員会では、次のような基本的な考え方にもとづき、平成十二年七月二十七日に会計事務規則を制定し会計業務運営の準拠にすると共に、平成十三年七月十六日には事業会計細部実施要領を定めて厳正かつ正確な経費執行に努めました。

ア、事業会計は、平成七年十一月の委員会設立から記念事業終了までを一事業年度として整理することとし、支出を伴う記念事業開始以後においては毎年三月末に中間整理を行い、会計監査を受けると共に委員会に報告してその承認を受ける。

イ、事業ごとに会計職員を指定して契約担当と出納担当を区分すると共に金額により決裁権者を定める牽制組織として責任範囲を明確にする。

ウ、各事業担当は、経費執行前に事業計画に伴う予算案を作成して、委員会の承認を得て経費を執行する。

エ、醸金者の意思に応えるために企画、募

上記決算に基づく事業会計残額については醸金者の皆様からの貴重な浄財であることから、じごの取り扱いについても昨年六月二十日の代議員会で下記の委員会提案が承認されました。

(一)事業会計残額の取り扱い方
五十周年記念事業特別会計経費として、別会計として処置する。

(二)記念事業特別会計経費総額と経費運用予算区分

ア、総額

四、一七四万円

イ、経費運用予算区分
① MCI事業(創設)予算

一、五〇〇万円

②顕彰室・資料館整備予算(修正)

一、二五〇万円

・顕彰室・資料館整備予算(修正)

六五〇万円

・卒業生コーナー調度品
三〇〇万円

・十六年度慰霊祭行事支援
三〇〇万円

ウ、事業予備費
一、四二四万円

(三)事業予備費の運用について

下記の五十周年記念事業の基本理念に則った用途に当てることとし、三年以内を自途に同窓会で検討処置する。

▲基本理念

○後世に残す価値あるもの

◎二十一世紀への飛躍の理念にそるものに必要な経費及びMCI事業が本来の趣旨である「国家・社会に対する情報発信」へと事業の発展を追求する場合は、優先して使用する。

五、事業会計残額の取り扱いに 関する代議員会の決定事項

六、同窓会本部へ申し送り事項

申し送り事項として同窓会本部に引き継いだ主要事項は、次のようなものです。

(一)MCI用パソコン・通信機器
平成十五年三月二十七日にMCI準備委員会に機器の引き継ぎ完了。

MCI準備委員会への責任転移時期…
平成十五年三月三十一日 一七・〇〇

(二)継続事業
ア、顕彰室・卒業生コーナー整備事業
(ア)平成十五年二月二十七日、顕彰室の整備に関する防大との調整会議を実施した結果、顕彰モニュメントの土台と「光の柱」及び遺品格納室は出来る限り防大の改修設計に取り込む方向で検討していくことになり、同窓会は、刻銘板作成と取り付け費用の負担及び卒業生コーナーの調度備品を寄贈することで合意した。じごの予定は、平成十五年六月以降に予定される資料館改修の実施設計の段階で関係する業者選定と共に具体化されて、契約行為に入ることになる。又、顕彰室及び資料館卒業生コ

50周年記念事業決算報告

別表第2
平成15年4月21日現在
(単位:円)

番号	事業項目	事業細目	内訳	予算額	支払実績額	記事
		事業会計総額		122,215,549		
1.	モニュメント			50,000,000	48,914,519	
	ステンドグラス			27,500,000	26,623,613	
	制作・設置			20,832,000	20,832,000	(株)デザインシステム
	原画制作			2,000,000	2,000,000	平松画伯材料費等
	謝金			3,000,000	3,000,000	平松画伯
	パンフレット			660,000	324,432	
	その他			1,008,000	467,181	除幕式関連経費、検査関連旅費等
	彫刻像			22,500,000	21,122,756	
	制作・設置			20,000,000	20,000,000	(株)三越
	除幕式経費				200,000	
	パンフレット			660,000	324,431	
	その他			1,840,000	598,325	検査関連旅費等
	制作過程展示経費等				1,168,150	
2.	顕彰室・資料館・記録			27,000,000	6,986,336	
	顕彰室			18,000,000		★ 未執行
	卒業生コーナー			3,000,000		★ 未執行
	ブックレット			1,000,000	2,105,355	防大要望により増部
	記念ビデオ			5,000,000	4,880,981	
	記念ビデオ作製			4,385,000	4,093,950	(株)あだち
	謝礼			300,000	300,000	シナリオ作成者・協力者
	シナリオ作製				143,300	製作者旅費
	映像使用料				125,685	NHK
	ビデオ実費頒布				100,000	委託謝礼
	その他			315,000	118,046	
3.	記念行事等(レセプション除く)			14,000,000	9,978,191	
	記念講演会			10,000,000	5,471,644	
	講演者関連			4,600,000	3,400,000	支部記念講演支援金含む
	記念行事			1,100,000	799,000	
	講演録作成			1,200,000	1,090,740	
	その他			3,100,000	181,904	
	記念マーチ			4,000,000	4,506,547	
	作曲謝礼金等			3,050,000	3,379,620	
	演奏経費				400,000	
	CD作成費用				288,802	
	マーチ楽譜				92,400	印刷経費
	その他			950,000	345,725	
4.	MCI構想			5,000,000	4,035,354	
	MCI構想モデル作成費				3,200,000	
	事務検討用パソコン一式				507,517	
	電話機・加入権・P/Cラック				93,082	
	その他				234,755	
5.	醸金者対応			9,500,000	10,559,818	
	醸金者芳名録			500,000	504,525	
	小記念品			9,000,000	10,055,293	
	記念ビデオ				3,701,250	
	記念絵葉書セット				751,800	
	配布輸送費等				5,602,243	
6.	予備経費			16,715,549		
	所要経費総計			122,215,549	80,474,218	事業会計残高 41,741,331

七、記念品未受領会員への お知らせ

(一)現役会員には、平成十五年二月上旬に駐屯地別・基地別に一斉に発送して全てを完了しています。

一方、OB会員は、各期生会の協力をえて平成十五年三月までに第一次発送、ついで四月末までに一次発送返送品を含め新たに住所の確認出来た会員に対して逐次に第二次発送をしました。じごも引き続き聞き込み等により未発送者の住所の特定に努め、六月上旬にも第三次発送までしましたが、残念ながら平成十五年六月二十日現在、六三名の会員の所在が確実に把握できませんでした。

別表第三に「未発送者リスト一覧表」として氏名（期別、要員含む）を掲載させていただきました。本人からの申し出はもとより知人として確認できる会員がございましたら、是非同窓会本部までご連絡いただければ幸甚に存じます。

会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

(一)別表第三・記念品未発送者リスト一覧表

八、記念事業に携わった委員会 メンバーの紹介

(一)約七年半に亘った記念事業委員会の組織編成の推移は別表第四の通りであります。

委員会は、発足当初約二〇名規模を目

標に立ち上げ事業構想の具体化に伴い逐年委員を増強し、そして平成十三年度以降事業の具体的実行のために更に組織を再編して最終的に三〇名体制で各事業を完遂しました。

この間、委員会にメンバーとして加わっていただいた会員は総計四二名（OB会員二五名と現役会員一七名）になります。現役委員は転属に伴い交代制になりましたが、OB委員も三名の方々が平成十三年の組織再編の際に交代いたしました。

しかしながら、佐久間委員長以下一〇名の委員は委員会発足当時から最後まで委員会の推進役として同窓会のこの歴史的な事業完遂のため、多大な労を担つていただきしたことになります。

最後に、委員会の委員として或いは委員会の協力者として真摯に貢献いただいた方々の氏名を会員の皆様に紹介させていただくと共にその積年の労に感謝申し上げます。

(一)別表第四・記念事業委員会組織編成の推移

記念事業の構想段階【平成8年9月頃】 [18名]

委員長		佐久間 一	#1海 OB
副委員長	資料館・記念行事担当	志方 俊之	#2陸 OB
	モニュメント・経理・募金担当	石塚 熊	#3空 OB
	事務局長	宇野 章二	#4陸 OB
	事務局補佐	長野 耕治	3陸佐 #26陸 陸幹校
	事業総括担当	久保 正佳	#3陸 OB
	モニュメント担当	桜澤 清志	#4海 OB
		石飛 勇次	陸将補 #10陸 陸幕装備部長
		渡辺 至之	1空佐 #20空 統幕5室
	資料館・記録担当	福地 建夫	#5海 OB
		小泉 進	#6空 OB
		永井 昌弘	2陸佐 #25陸 陸幕人計課
	記念行事担当	田中 厚彦	#4空 OB
		高橋 孝途	2海佐 #26海 海幕運用課
		笠井 秋彦	1空尉 #31空 空幕援護業務課
	経理・募金担当	馬野 猛彦	#4陸 OB
		渡辺 正	#5空 OB 小原台クラブ
		斎藤 隆	海将補 #14海 海幹校副校長

記念事業の計画段階【平成12年3月頃】 【25名】

委員長		佐久間 一	# 1 海 OB	協力者
副委員長	資料館・記念行事担当	志方俊之	# 2 陸 OB	
	モニュメント・経理・募金担当	石塚 煉	# 3 空 OB	
	事務局長	宇野 章二	# 4 陸 OB	
	事務局補佐	田村 鞠利	# 7 陸 OB	
	事業総括担当	久保 正佳	# 3 陸 OB	
		桜澤 清志	# 4 海 OB	
	モニュメント担当	石飛 勇次 陸将	# 10 陸 富士学校長	
		渡辺 至之 1空佐	# 20 空 統幕5室	
		竹永 三英	# 8 陸 OB	
		平山 助成	# 10 海 OB	
	資料館・記録担当	福地 建夫	# 5 海 OB	桑原泰彦 (# 6) 久保田博幸氏
		小泉 進	# 6 空 OB	
		川口 博司 2陸佐	# 25 陸 陸幕研究課	
委員	記念行事担当	田中 厚彦	# 4 空 OB	平成12年7月以降
		大塚 海夫 2海佐 (南 孝宣 2海佐)	# 27 海 (# 29 海) (海幹校)	
		根本 浩治 3空佐 (高橋 秀雄 3空佐)	# 31 空 空幕運用課 # 32 空 空幕防衛課	平成12年8月以降
		馬野 猛彦	# 4 陸 OB	
	募金担当	渡辺 正	# 5 空 OB 小原台クラブ	
		斎藤 隆 陸将補	# 14 海 海幕防衛部長	
	会計担当	尾頭 誠	# 8 空 OB	
		矢島 寛三	# 8 海 OB	
	会計監事	佐川 明彦	# 3 空 OB	
		平賀 源太郎	# 7 海 OB	
		大久保 博一 陸将補	# 15 陸 陸幕監理部長	

記念事業の計画段階【平成13年8月以降】 【30名】

委員長		佐久間 一	# 1 海 OB	協力者
副委員長	資料館・記念行事担当	志方俊之	# 2 陸 OB	
	モニュメント・経理・募金担当	石塚 煉	# 3 空 OB	
	事務局長	田村 鞠利	# 7 陸 OB	
	事務局補佐(兼務)	藤原 利将	# 9 陸 OB	
	モニュメント担当 (制作展示含む)	桜澤 清志	# 4 海 OB	
		竹下 茂之	# 10 海 OB	
		村岡 亮道	# 11 空 OB	
		竹永 三英 (渡辺 至之 1空佐)	# 8 陸 OB (# 20 空) (在米防衛駐在官)	
	記念行事・特集号担当	藤原 利将	# 9 陸 OB	
		石飛 勇次	# 10 陸 OB	
		原 充宏	# 11 陸 OB	
	記念講演会担当	渡辺 正	# 5 空 OB 小原台クラブ	
		田中 厚彦	# 4 空 OB	防大吹奏楽部 OB会
	記念マーチ担当	松浦 明裕 3空佐	# 34 空 空幕防衛課	
		小泉 進	# 6 空 OB	桑原泰彦 (# 6) 久保田博幸氏
	MCI担当(兼務) (兼務)	志方俊之	# 2 陸 OB	
		田中 厚彦	# 4 空 OB	
	顕彰室・資料館担当 ブックレット作成	福地 建夫	# 5 海 OB	
		永井 昌弘 1陸佐	# 25 陸 陸幕人計課	
	募金・醸金者名簿担当	馬野 猛彦	# 4 陸 OB	
	記念品担当	内村 彰和	# 11 陸 OB	
		加藤 雅巳 2海佐	# 31 海 海幕人計課	
	会計担当	尾頭 誠	# 8 空 OB	
		矢島 寛三	# 8 海 OB	
	会計監事	佐川 明彦	# 3 空 OB	
		平賀 源太郎	# 7 海 OB	
		瓦谷 育夫 陸将補	# 15 陸 中央会計隊長	
	現役代表	吉川 荘治 海将補	# 15 海 統幕5室長	
	各幕調整窓口	陸幕監理部長 海幕監理部長 空幕監理部長		

中期事業

「防大同窓会あり方検討委員会」について（案）

一 「あり方検討委員会」設置の背景

防大同窓会は、昭和三十六年一月に発足して以来今日まで着実な発展を遂げ、現在会員数約二万名（退官者約八千名、現役約一万二千名）を擁し、四個地域支部、五個直轄地区支部及び二個海外支部で構成される大きな組織になり、会員相互の親睦活動、母校防衛大学校への物心両面にわたる支援活動及び会員の社会的活動の支援等を実施しております。

母校防衛大学校は、昨年（平成十四年）創立五十周年を迎えたが、防大同窓会は「五十周年記念事業委員会」を設置して「五十周年記念事業」を実行し、母校の五十周年記念行事に全面的に協力しました。

この半世紀の間に国内外情勢は大きく変化し、現職の同窓生が中核となって活躍する自衛隊の果たすべき任務・役割は、国際貢献活動など益々多様化しており、また自衛隊を退官・退職された多くの同窓会員が、実業界や言論・教育分野等をはじめ社会的なボランティア活動などでも大いに活躍しています。さらに防大同窓会は、約十年後には、会員数及び

会員の構成（退官会員と現役会員の比率）がほぼ一定になるものと見積られます。

防大同窓会の活動や事業のあり方については、これまでその時々の同窓会の置かれた状況に即して検討された経緯があります。

例えば昭和五十五年頃には「同窓会館」

設立の可能性等について論議され、昭和五十八年に「財団法人設立委員会」を設置して真剣に検討されましたが、収益事業の具体化が困難として平成五年に断念されました。同時に、同窓会の今後の事業のあり方にについて中長期的見地から検討する必要があるとして、同年末に「将来構想検討委員会」を発足させ、「同窓会のあるべき姿」や「同窓会の今後の運営のあり方」等について検討され、平成八年三月に同窓会の活動範囲及び事業、同窓会組織の検討・確立、同窓会財政の見直し等について答申されました。この答申を踏まえて、「事業推進委員会」を設けて事業の具体化が検討され、また

二 「あり方検討委員会」の概要

(一) 目的

「長・中期的視点から防大同窓会のあり方を検討し、同窓会運営施策の資を得る」ことがあります。

(二) 主要検討項目

- 同窓会の目的及び活動の範囲・重点
- 事業のあり方、特に事業設定・見直し（当面の事業及び約十年後以降の会員数ほぼ一定状態における事業のあり方等）
- 組織のあり方、特に各支部・小原台事務局の地位・役割及び各期生会・各種OBの会（校友会・NGO等）等との関係
- 財政基盤のあり方、特にプール金、適正な予算規模及び会費納入を含む基金の確保策等

(三) 検討期間

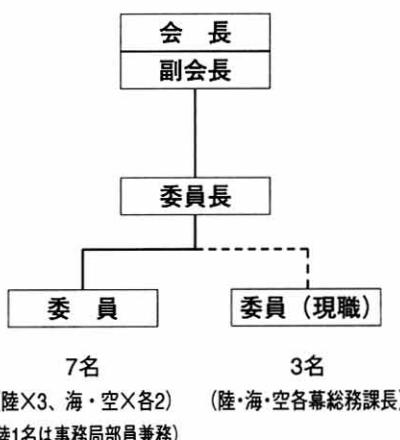
平成十五年十一月～平成十七年三月

編成組織

会長直属の組織とし、会長を補佐す

選出されて新執行部が発足したのを機会に、同窓会を取り巻く時代や環境の変化に対応し、また同窓会が直面している諸課題等を解決して、同窓会の長（中期）にわたる安定的活動を維持するために、プロジェクトチーム「防大同窓会あり方検討委員会」（以下「あり方検討委員会」という）を編成して、同窓会の組織、事業、財政基盤のあり方など全般について、これまでの検討成果を踏まえつつ、再度時間をかけて検討し、将来の同窓会運営の施策に反映させることになりました。

るべく担当副会長一名を指名、当面委員長以下十一名の委員（現職委員を含み、委員の一名は事務局員を兼務）で編成します。



職務	氏名	期別等	備考
副会長	藤繩 祐爾	8期・陸	
委員長	村田雄二郎	10期・陸	
委員員	堯四郎	11期・陸	
委員員	治峰	12期・陸	
委員員	勇治	14期・陸	
委員員	木山	12期・海	
委員員	経田	14期・海	
委員員	木木	12期・空	
委員員	佐々木	15期・空	
委員員	松井	22期・陸	
委員(現職)	宮寄	21期・海	
委員(現職)	大谷	20期・空	
委員(現職)	宮脇	20期・空	

年	15				16			17	
	月	12	12~2	3~10	9~10	11~12	1~2	3	

事務局員兼務

陸幕監理部総務課長
海幕監理部総務課長
空幕総務部総務課長

委員等名簿（敬称略・順不同）

MCI事業の平成十五年度の実施状況について

新聞小原台原稿担当・十三期 空 新治

MCI事業について、不案内な会員もおられると思うが、紙面が限られているので、昨年度の小原台などを読んで頂くとして、事業構想の概要について述べた後に十五年度の実施状況を中心に述べる。

一 MCI事業の構想

(一) MCI事業の趣旨

わが国の国家運営では、何か物事を決めるに際して、政治・経済・外交・安全保障（以下、本文では軍事と表現する）の四本柱のうち、軍事的視点が抜けていることが多い。これには幾つかの原因があるが、その一つは、軍事に関する知識や体験が整理総合されていないため、軍事的視点からの考察をすることが難しいことである。

(二) 政治・経済・外交についての政策判断

政治、経済、外交についての政策判断や学術研究をする際に、参考にできる「軍事的識見が整理総合されているセンター」が無いために、どうしても軍事的な視点が疎かになるのである。

現在、意ある者が中心となって運営している軍事・防衛の課題を中心とした研究所も幾つかあって心強い限りであるが、それぞれが研究の基礎となる識見を整理総合する段階で時間と労力を必要とするところから、研究そのものに

充当する時間や労力が不足する共通の問題に直面している。もし、このようないセンターや設立されれば、これらの各研究所も資料を効率的に整えることが可能となり、一挙に研究効率を上げることが可能となる。他方、現在の政治・外交・経済界では、それを良いことに、意識的に軍事的な思考を排除する傾向さえある。反対に、これに気がついている政治家、財界人、外交官は多いのだが、自分の力で軍事・防衛に関する識見を整理統合する余裕がないのが現状である。

ここに提案する「MCI（Military Cyber Institute）構想」は、このようないわが国の現状を改善するために、防大同窓生の力を結集して国家・社会のための活動を開拓しようとするものである。名称については未だ仮称であつて、同窓会が本構想を実行に移す場合には、さらに一般に理解し易い名前（例えば、防衛情報機構、DIO）等に変えるべきものであるが、ここでは便宜上「MCI」と呼ぶことにする。

(三) 受託活動としては、軍事専門家の派遣、軍事関連情報及び資料の紹介、スピーディー突貫翻訳、防衛関連資料の収集、軍事教育など教育、軍事関連資料の作成等防衛諸活動支援等

(四) 活動の段階的区分（フェーズ）

MCI構想は、本来、中・長期的なものであるから、「小さく産んで、大きく育てる」を原則とし、活動は次のような五つのフェーズ●フェーズ1（防大ホームページ開設段階）、●フェーズ2（情報システム構築段階）、●フェーズ3（タスク・フォース編成段階）、●フェーズ4（デモンストレーション段階）、フェーズ5（新組織発足段階）の五つのフェーズに区分して段階的に充実し発展させる。（以下略）

MCI事業の活動は、内容によつて二つに区分する。すなわち、同窓会員自身のために行うサービスである「自主活動」と、他の組織や個人から委託された活動を有料で行うサービスである「受託活動」である。任意団体である同窓会が、同窓会員のため「自主活動」を行うことは当然であるが、運転資金を確保するため有料で行う「受託活動」は原則として不可能である。し

たがつて、当初は「自主活動」を行い、その実績を見て同窓会が「何らかの組織」を作る段階においては、その組織の性格によつては「受託活動」が可能となる。それぞれの活動の内容については、（一）自主活動としては、情報システムの構築、ホームページサービス、同窓会名簿閲覧サービス、掲示板サービス、軍事関連情報及び資料の紹介、パネルディスカッション、講演会の開催、ボランティア活動支援などである。また、

二 平成十五年度実施成果及び検討の状況

(一) 実施成果

以上のような事業構想の基で、平成十五年六月に実施された臨時代議員会における決定事項に基づき実施したMC事業の成果概要は次のとおり

① MC一委員会の拡充と委員会における各種事業等に関する検討

○開催の状況

十五年度臨時代議員会以降、武田同窓会副会長及び新井同窓会本部事務局長の陪席の下、第一回を七月十七日に、第二回を九月一日に、第三回を九月二十九日に、第四回を十月十日に、第五回を十一月五日に、第六回を十一月十八日に実施した。

○委員会の拡充と構成等

委員長・久保田和弘氏（陸・五期）
委員・小林一雅氏（空・八期）
委員・西野重信氏（空・八期）
委員・荻野正憲氏（海・九期）
委員・井本尚英氏（陸・九期）
委員・若木利博氏（陸・十期）
委員・牧田正紀氏（海・十三期）
委員・新治毅氏（空・十三期）

*なお、第二回準備委員会において、久保田委員長が健康等の理由による辞任が表明され、それに伴い西野委員も辞任を表明された。このため、第三回準備委員会以降は、同窓会本部事務局長の要請により、小林委員が委員長代理として同窓会本部事務局長を総括している。

② 同窓会システムの整備

○平成十六年一月末までに、平成十六年一月末までに同窓会端末と五十周年記念事業委員会から移管されたMC端末をADSL（NTT東日本）によりプロバイダー（Niffty）と接続するため必要な措置を推進

中

○個人名のプロバイダー契約を法人名義契約へ変更するための諸準備を推進中

○同窓会本部事務局施設内にMC-I関連設備を設置するための所要の準備を推進中

○同窓会システム構成の概要は、別紙第一のとおり

③ 防衛大学校同窓会ホームページの開設

○防衛大学ホームページの一部として存在していた同窓会ホームページを十月二十九日、同窓会本部のパソコンに移設を完了

○ホームページの段階的充実に伴い、所要に応じ、ドメインの借用及びこれまでに伴うサービスの提供等に関する

プロバイダーとの契約を準備中

○主要検討事項

ア、同窓会システムの構成、設置場所、プロバイダーとの契約内容等

イ、同窓会システムの運営組織、運営要員、運営要領

ウ、同窓会ホームページの内容、運営要領

エ、小原台賞、貢献志願者等登録、同窓会名簿の閲覧

○各期生会及び防衛関係のホームページとのリンクを行えるよう所要の調査を推進中

○同窓会ホームページ上に、十六年度以降の事業として、貢献者登録及び防衛能力者の登録に関する計画があることを掲載し、同窓生に周知することを掲載し、同窓生に周知するための準備を推進中

○同窓会ホームページ構築および維持担当責任者一名（未指定）、同窓会ホームページ構築および維持担当一名（指定済み）に加えて、同窓会システムによるMC-I事業の拡充に伴い、さらに同窓生名簿の閲覧担当一名、貢献志願者および防衛能力者の登録担当一名を有償により確保する方向で検討している。

○同窓会責任者として同窓会本部事務局長が妥当

○平成十六年一月に予定する同窓会システムの試験運用開始時までに、MC-I担当責任者一名（未指定）、同窓会ホームページ構築および維持担当一名（指定済み）を有償による確保するための諸準備を推進中

④ 同窓会システムの運営組織

○運営責任者として同窓会本部事務局長が妥当

○平成十六年一月に予定する同窓会システムの試験運用開始時までに、MC-I担当責任者一名（未指定）、同窓会ホームページ構築および維持担当一名（指定済み）を有償による確保するための諸準備を推進中

⑤ 検討の状況

○同窓会システムについて

○同窓会システム

当初、既存資産の有効活用の観点から、同窓会端末と五十周年記念事業委員会から移管されたMC-I端末を

ADSL（NTT東日本）によりプロバイダー（Niffty）と接続する形態に留め、爾後、各種事業の拡充に伴いドメインの借用を行う等のシステム規模の拡大を考慮すべきとの考え方をベースに検討を行ってい

ア、平成十七年度末までの間、保管情報等の拡充に伴い、所要に応じ、専用ドメインの借用、アクセス権の設定、パスワードの管理、セキュリティの確保等に必要な契約をプロバイダーと締結する方向で検討している。

イ、平成十七年度末までの間、平日のみMC-I関連設備に要員を配置する方向で検討している。

○同窓会システムの運営責任者は、

同窓会との関係を重視し、平成十七年度末までは、同窓会本部事務局長とするのが妥当と判断し、事務局長の下に所要の要員を所要に応じ確保する方向で検討している。

イ、平成十七年度末までの間は、MC-I担当責任者一名（未指定）、同窓会ホームページ構築および維持担当責任者一名（指定済み）が、同窓会本部事務局長の下に所要の要員を所要に応じ確保する方向で検討している。

イ、平成十七年度末までの間、平日のみMC-I関連設備に要員を配置する方向で検討している。

ウ、平成十八年度以降は、検討中の中間法人が設置された場合は、当該法人に同窓会システムの運営を委託する方向で検討している。

② 同窓会ホームページについて

○ 同窓会ホームページの内容

既存の同窓会ホームページの内容を段階的に拡充するとともに常に最新の状態にアップデートすることを基本に、ホームページの目的、範囲、更新頻度、倫理基準等について検討を継続している。

○ ホームページの運営要領

ア、当面、コンテンツの取材及び編集の責任者は同窓会システム運営責任者が兼務する方向で検討している。

③ 「小原台賞」について

○ 安全保障に関する世論啓蒙のため論文等を広く公募して優秀者を顕彰する事業について検討したが、以下の理由でその実施は時期尚早との結論に達した。

ア、議論の場の未成熟

情報発信母体となるホーム・ページが緒についたばかりで、安全

保障問題を議論する場が未だ立ち上がりっていないので、当初はそれらを整備して質の高い議論の場をまず育成する必要がある。

イ、担当者確保の困難

論文公募のためには、安全保障に関する専門的ボテンシャルを有する人材が上記フォーラムの座長として長期、安定的に確保される必要がある。

ウ、資金的制約

他の学会や研究組織のようなスポンサーがないので、MC-Iが利潤を出すようになるまで長期継続的資金のメドがなく、本事業に使える資金は限られる。

○ したがって、この事業は、MC-I事業にはなじまないものであり、同窓会本来の事業にするべきであると考へている。

④ 受託事業に必要な「何らかの組織」について

○ 監督官庁が不要なこと、構成員に対する規制が可能なこと、会計法上の法人であること、同窓会長に責任が及ばない完結した組織であること、

の理由により、現時点では同窓生による中間法人とすることが望ましいとの考え方を基本に検討を推進中である。

○ 同窓会が三百万円の基金を中間法人に提供し、受託事業及び同窓会システムの維持・運営を委託する方向が望ましいと判断しており、中間法人の設立要領及び組織の規模、運営要領などについて引き続き検討する。

○ 中間法人の理事長については、各期生会が推薦する者の中から同窓会長が承認する適任者を選定し、中間法

人の構成員は理事長が選定するとの考え方を基本に検討中である。

○ 中間法人の定款及び構成員の報酬については、代議員会の承認を得るものとす

るのが適当であろうと判断している。報告し、解散の承認を得るものとす

○ 貢献志願者及び防衛能力者の登録について

○ 登録システムの開発に関しては、今後の「事業の在り方によつて、当該システムの運用（利用）形態が、ア、利用のための管理・仲介組織を設ける形態、イ、利用者が直接データベースにアクセスし当該登録者に直接交渉する形態、ウ、情報（データベースの作成）にとどめ災害発生時等の所要に備える形態、等々が考えられる。従つて、これらによりシステムの基本となる要素が左右されることから、引き続きMC-I事業の進展に合わせて検討を行う。

○ 十六年度及び十七年度、MC-I管理運営組織において、運用（利用）形態及び登録項目を検討・決定するとともにシステム等を開発・運用する方向で検討中である。

○ 登録は、ホームページ等で同窓生に登録を要請し、該当者が同窓会システムに登録する方法を検討中である。

⑤ 同窓会員名簿の閲覧について

同窓会員名簿に係わる業務は、基本的には同窓会本部事務局の業務であることを見出し、MC-Iは状況によりメールで

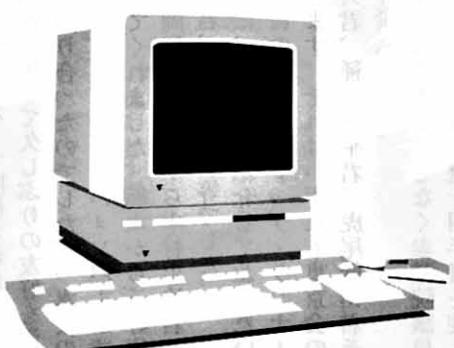
の仲介等を行うものの、セキュリティ及びプライバシー重視の観点から、当面、自動閲覧は行わないことを基本として検討中である。

三 来年度の実施予定事業

平成十六年度は、ホームページの管理情報システムの構築及び運用などを実施する。

なお、当面立上げている同窓会のホームページのアドレスは次ぎのとおりであるので、利用されたい。

<http://homepages3.nifty.com/mci-bodaidosokai/>



期生会だより

Kiseikai Dayori #11

4期生会

◆理事 加藤 哲朗

総会及び役員のお知らせ

一 平成十五年度第四期生会総会及び懇親会を次により開催致しますので、万障繰り合わせの上多数御出席いただきますようお願い申し上げます。

・日 時 平成十六年二月六日(金)

・受付開始 一三・三〇

・会場 グランドビル市ヶ谷 三F

・会費 紳士 七〇〇円
　　淑女 三〇〇円

・瑠璃の間

・自宅電話番号

・会員登録

・会員登録

・会員登録

・会員登録

・会員登録

・その他

二 平成十五年度第四期生会本部役員

(平成十五年九月一日現在)

平成十五年度本部役員は次のとおりです。よろしくお願い致します。

会長 横地 貞
自宅電話番号 ○四七四一六一一七五九九

7期生会

◆北斗会東部支部部長 石田 育

北斗会東部支部の近況

今回は近畿圏及び東北圏の一部からも日帰り出席が可能な時間設定にしました。年一回の会合に遠来の同期生諸氏施しますが当日の急な出席も受け致します。

・その他
一部からも日帰り出席が可能な時間設定にしました。年一回の会合に遠来の同期生諸氏の御出席を期待します。

二 平成十五年度第四期生会本部役員

(平成十五年九月一日現在)

平成十五年度本部役員は次のとおりです。よろしくお願い致します。

会長 横地 貞
自宅電話番号 ○四七四一六一一七五九九

理事(陸)	加藤 哲朗
自宅電話番号	○四一七一三一一八四五五
理事(海)	向井 朗
自宅電話番号	○四六八一三五一一八六九
理事(空)	児玉 節正
自宅電話番号	○四二一九六三一四五七三
総務(陸)	山中 欣也
自宅電話番号	○四五一三七一一〇二九七
総務(海)	白川 稔
自宅電話番号	○四四一七二二一三八三一
総務(空)	上川 高昌
会計(陸)	杉原 佳
自宅電話番号	○四七一四三〇一五三五二
会計(空)	稗田 韶
自宅電話番号	○四八一九五一一八〇四〇
会計監査(陸)	○三一三九九六一九三五〇
自宅電話番号	○四八一七九四一〇九四一
会計監査(海)	野口 章
自宅電話番号	○四七一三九一三七二〇

この一水会に新しい動きがあります。昼食会の後のクラブ活動です。まず、「囲碁クラブ」は萩原嘉明君、松浦孝昇君等が市ヶ谷会館のOB談話室で対局しています。その効あって同窓会の囲碁大会では、松井宏、速水誠一、伊東伊佐雄、石寄孝男、高瀬正典、石橋揚夫の各君を含めた北斗会が準優勝の成果を認めました。

もう一つは俳句クラブ、「一水句会」です。土井義彦、高山清、深見重満、石橋穂、山縣秀雄、今井均、石田潔の面々です。ほとんどみんな句会は初体験です。各人五句づつ投句し、作者不明のプリントで互選するやり方です。季語がなかったり重なったりの大騒ぎですが、句評だけはみんな一言居士ですのでなかなか厳しいものがあります。ここで自信をつけて、地元の句会等に入会するのもひとつ目標です。

次に、近況報告には年に一度の定例総

岡東部を含む、会長・出水克明君)八十一名、埼玉会(会長・村木裕世君)五十四名、千葉会(茨城を含む、会長・吉岡誠君)九十一名です。

支部の近況報告は、まず月一回の「一水会」からです。防衛庁の真ん前の割烹「四季」で毎月第一水曜日に開催しています。現役時代からの伝統ある昼食会です。

出席者は事前にメールで吉岡誠君に連絡する仕組みです。このところ北斗会同期生が第二の定年になり、東京勤務者が減ってきましたので、出席者数が徐々に少なくなっています。それでも二十名内外が集まっています。また、メンバーが固定化してしないのがよいところです。

継続は力です。これからも粘り強く続けてまいります。

この一水会に新しい動きがあります。昼食会の後のクラブ活動です。まず、「囲碁クラブ」は萩原嘉明君、松浦孝昇君等が市ヶ谷会館のOB談話室で対局しています。その効あって同窓会の囲碁大会では、松井宏、速水誠一、伊東伊佐雄、石寄孝男、高瀬正典、石橋揚夫の各君を含めた北斗会が準優勝の成果を認めました。

もう一つは俳句クラブ、「一水句会」です。土井義彦、高山清、深見重満、石橋穂、山縣秀雄、今井均、石田潔の面々です。ほとんどみんな句会は初体験です。各人五句づつ投句し、作者不明のプリントで互選するやり方です。季語がなかったり重なったりの大騒ぎですが、句評だけはみんな一言居士ですのでなかなか厳しいものがあります。ここで自信をつけて、地元の句会等に入会するのもひとつ目標です。

次に、近況報告には年に一度の定例総

会を外せません。総会の担当は各会の回り持ちです。平成十五年度は東京会の担当で、七月四日グランドビル市ヶ谷で藤田会長が中心になつて開催されました。九十余名が参加して久しぶりの友好を深め、近況を語り合つたのでした。一水会の集まり等には出席できないメンバーが遠くから来てくれました。柄木から三好康弘君、静岡御殿場地区から中村忠治君、松本大作君、山口克弘君等でした。

さらに、この際ご紹介しておきたい当支部会員の同窓会のトップ・ランナーが四人います。それはいずれも東京会の尾辻秀久君、種村良平君、虎尾幹司君そして三好康弘君です。

尾辻君は申すまでもなく参議院議員です。当選三回、議員歴十四年目を迎えています。第一次小泉内閣の財務副長官として名が挙がりました。現職は参議院政策審議会会長代理、自民党政調審議会副会長です。TV放映された、前国会での予算委員会の質問は圧巻でした。

種村君は株式会社の取締役社長です。そのコアが平成十五年三月東証一部に上場しました。現在の株価は上場時の三倍強の一六〇〇円をつけています。それを祝う同期生会が十月十七日、明治記念館で開かれ盛会でした。次は東証一部に上場するとの決意表明もあり、その演説とした勇姿が喝采を受けました。

虎尾君は小説家です。現在は教育関係の仕事をしつつ二足の草鞋をはいていましたが、この度「夢追いて 卑弥呼」(東洋出版社 二二〇〇円)を出版しました。初版から六ヶ国の大書店で同時発売になりました。紀伊國屋書店では店のテロップに

も取り上げられています。少女時代の卑弥呼のロマンに思わず引き込まれてしまっています。大河小説の初刊です。

小説家としては三好君が先行しています。

二年前に「虹の橋」(新風社)一〇〇円でデビューしています。今年十月には次作が出版されました。「怨念の花」(新風社)六〇〇円です。いずれも歴史小説で、前作は南北朝時代を、新作は室町時代の日野富子を描いています。是非、

書店で手にしてみてください。

最後に小説家に負けずに一句。一ヶ月遅れの名月は「後の月」と呼ばれ、収穫の時を迎えるので、「栗名月」、「芋名月」の別名があります。北斗会のみんながいつまでも元気である事を願つて。

栗名月遅れて來たる罰も酒

久闊を叙すにつものにごり酒

◆北斗会九州支部長 伊藤 宏美

北斗会九州支部の現況

九州支部には、沖縄在住の藤井君を含めて現在五十八名の会員が在籍していますが、近年東京地区等での二回目の定年を迎えて故郷九州へ帰る人がいて未だに増加傾向にあります。

支部の活動としては、毎年七月の第一

土曜日に実施する総会(懇親会)において近況を語り合い、お互いの健康を確認している程度ですが、これには毎年二十

数名が参加し、逐年参加者が固定化されつつあります。この他に、有志によるゴルフコンペを毎月実施していますが、十

数名で腕を競っています。

会員の中には、公職に就いている者(町長・矢野君(二期目)、市議・後藤君(三期

目)、この不況下、自営で頑張っている者(鬼丸・富本・西田・松山君)、趣味を活かして工房を開いた宮本大氣君や皆さん御存知の鹿児島県知覧町の「特攻平和会館」で語り部をしている川床君等多士済々ですが、大半は、定年後の第二ラウンドの最終コーナーを頑張っている者、第二の定年を迎えて悠々自適(?)の日々を過ごしている者がほぼ半々という状況です。

北斗会(七期生会)からの連絡

北斗会では九月に同期生名簿「北斗」を配布しました。これは、多くの同期生が第二の人生たるお勤めも終わりに近く、それぞれの落ち着き場所もほぼ決まったこの時期に住所録を作ろうと、大越会長の発案で作成しました。住所のわからない同期生もありますが、お許しを頂きたいと思います。当然ながらその同期生には「北斗」を送付していません。同期生会本部で若干の予備を持っていますので、住所不明の同期生の消息が判明した時には本部へご連絡下さい。なお、名簿「北斗」中、松本十四雄君の住所の末尾が三三一となっていますが三一一ですので訂正して下さい。

私は、川村君が東京を離ることとなつたことに伴い、平成十四年十月から準備委員の一員に加わりました。そして、平成十四年十二月一日には、準備委員全員による苦労の賜である名簿を基に案内状の発送に漕ぎ着けました。

私は、川村君が東京を離ることとなつたことに伴い、平成十四年十月から準備委員の一員に加わりました。そして、平成十四年十二月一日には、準備委員全員による苦労の賜である名簿を基に案内状の発送に漕ぎ着けました。

私は、川村君が東京を離ることとなつたことに伴い、平成十四年十月から準備委員の一員に加わりました。そして、平成十四年十二月一日には、準備委員全員による苦労の賜である名簿を基に案内状の発送に漕ぎ着けました。

【大懇親会】に移行しました。

懇親会は、副会長の陸・山下君の代理・管君と、同じく副会長の空・内山君の代理・津曲君からの挨拶に次いで、遠方からの参加者を代表して空の盛田君が乾杯の音頭を執るやいなや全員が一瞬のうちに学生時代にタイムスリップしました。

ところどころで御夫人たちですが、我々が学生だった当時は、ほとんどが全く無関係の方々だった訳で、その後各々が赤い糸に導かれて夫々の伴侶となつたハズなのに、まるで我々と同様にずつと昔から

参加、不参加の返信期限は二月三日でした。二月二十日の時点で、夫人を含め参加人数が一八四名になることを確認し、この数字を基に、一月以来会計係として加わった海の濱田君が、グランドビル市ヶ谷との最終的打ち合わせを行いました。

そして、いよいよ「総会・大懇親会」たよう、平成十五年二月二十一日(土)第十三期生会総会・祝賀会(大懇親会)の開催について実施報告

13期生会

◆鈴木 秀典

防衛大学校創立五十周年記念

昨年の本誌「小原台だより(Vol.10)」に、海の川村君が準備状況を紹介しました

たように、平成十五年二月二十一日(土)十六・三〇からグランドビル市ヶ谷二階

に会場に馳せ参じたところ、会場の「白樺の間」の入口には、先着の準備委員が既に長机を並べ配布資料や名札等々を準備し、一部受付を始めました。

そうこうするうちに徐々に参加者が到着しだし、「いよいよ、久しぶり」の声がそこここに交わされるようになります。紅顔の美青年だった面々も、それぞれの年輪を窺わせる変化は隠しようもありません。すぐに誰と分かる顔、卒業アルバムの顔を思い浮かべては一生懸命思って出そうと努力をする顔、比較的頻繁に会っている顔、卒業以来久々に再会する顔、顔、顔。開会を前にして徐々に雰囲気が高揚してくるのを感じました。

一六・三〇定時、防大同窓会等々で多くの場数を踏んだ中島君の名司会により、牧本会長挨拶の後、牧本会長を議長に選出して総会が開催され、会則の改定等必要な議決を手際よく行い、直ちに

大ジョッキ片手に総会の議題、陸海空準備委員の増員、進行要領から料理、看板、名札に至るまで、あれこれ意見を出し合い、各々の進捗状況を確認しつつ進められました。委員会の合間にも委員相互の連絡は極めて頻繁に行われ電子メールの有用性と有難さを心底痛感したものです。

参加、不参加の返信期限は二月三日でした。二月二十日の時点で、夫人を含め参加人数が一八四名になることを確認し、この数字を基に、一月以来会計係として加わった海の濱田君が、グランドビル市ヶ谷との最終的打ち合わせを行いました。

そして、いよいよ「総会・大懇親会」会が進むにつれて、また、美酒に酔うほどに、あちこちに輪ができては別の輪

らしさを噛み締めておりました。

会が進むにつれて、また、美酒に酔うほどに、あちこちに輪ができては別の輪

に波紋を広げ、卒業後の時間の経過などまるでなかつたかのように会場全体が話しそと笑い声に溢れました。途中、陸・香田君、海・川村君、空・金木君からの近況報告の時間も用意されていましたが、その登板の機会が持てなかつたほど、懇親会は盛り上がりました。

約一八〇名総員が一緒に記念写真に納まることは無理ということで、防大当時の班ごとに写真に納まることになり、みんなしつかりと参加の証拠を記録に留めていました。



▲逍遙歌大合唱

最終的な参加人数は、その内訳を「夫妻で参加（組）十単身参加（名）」参加人數（名）で表せば、
陸・十四組十五名＝七十九名、
海・十八組十名＝四十六名
空・十四組二十四名＝五十二名、
合計四十六組十八十五名＝一七七名でした。

これは、十三期生会員総数四六八名中一三一名（二十八パーント）が参加してくれた訳で、日本各地から馳せ参じて心から御礼を申し上げます。



一九〇〇過ぎには、みんなで会場いっぱいに輪を作つて逍遙歌を声高らかに歌い、北大教授・島津君の挨拶を最後に「大懇親会」の幕を閉じました。

「料理が足りないとの批判を心配してチヨット多めに奮発したけど、結構みんな酒を追加注文していたね。奥方もそれほど食べずに良く飲んだねエ。」とは、我々準備委員から出た感想です。

今回のクラス会に参加できなかつた全国の同期生の皆さん、皆さんの中には酒の肴にされて話題を提供していた方も相当数いましたよ。本人の知らない間に極悪非道の輩にされてしまつた貴君、艶話の主人公にされた貴君、誠にお氣の毒。

これで防ぐ方法は只一つ、懇親会等には万難を排してプレゼンスを發揮し、我が身に関する誤った情報が流布されないよう心がけるしかありません。まさに「ブーツ オン ザ フロワー」です。

全国各地で御活躍中の同期の皆さん、次回には再会できることを祈りつつ、ここに、「防衛大学校第十二期生会総会・三十周年記念行事を行ひ、同期生の絆を

祝賀会（大懇親会）の実施報告をさせました。

最後に、準備委員は次の面々でした。

会計係	海・濱田良昭
陸上委員	菅原 純
海上委員	寺口 聰 吉村研一
航空委員	鈴木秀典 山崎俊樹 宇都宮靖

次回の懇親会について

ところで、追伸です。

実は、前述の「大懇親会」終了直後から、「この余勢をかけて、来年も十三期生会をやろう。」という声・声・声があり、前述の準備委員で検討した結果、来る平成十六年二月二十一日（土）一一・三〇から（遠方からの参加者に配慮）、場所も同じグランドビル市ヶ谷で「防大第十三期生会（懇親会）」を開催する予定です。

前回出席できなかつた同期の皆さんも、今度は機会を作つて是非出席してください。何度も言うようですが『ブーツ オン ザ フロワー』です。元気な顔を見せてください。

前回出席できなかつた同期の皆さんも、今度は機会を作つて是非出席してください。何度も言うようですが『ブーツ オン ザ フロワー』です。元気な顔を見せてください。

それでは、再会を楽しみにしています。

17期生会

◆記念行事総務担当

菊池 悅男

十七期生会は、平成十五年四月、卒業三十周年記念行事を行ひ、同期生の絆をなでおろしました。

深めるとともに、新たなる旅立ちを祝いました。

記念行事は、来賓として、曲元防大幹事をお招きして、グランドビル市ヶ谷において、会員、夫人合わせ約二五〇名が参加して大変な盛り上がりを見せた記念パーティとパーティに前後して行われた期生会ホームページの開設、記念CDの配布、母校見学ツアー及び記念植樹、そして最後は記念ゴルフコンペで縮めくくり、忘れぬ思い出を刻むことができました。

そこで今回は先輩期も同様な記念行事をされていますので、行事の内容の紹介は止めにして、行事の準備の裏話を少し紹介したいと思います。

裏話その一

記念ゴルフコンペはパーティの一週間前に実施予定でしたが、実際は約三ヶ月遅れの七月実施となりました。事の顛末はこうでした。

努力の甲斐あつて、安くて集まりやすい某ゴルフ場と交渉成立し、開催日が近づいた頃、イベント担当がクラブハウスに電話をしましたが、何回かけても連絡が取れない状況となりました。やつとのおもいで得た情報は「当ゴルフ場は都合によりしばらくの間休業します。」旨の張り紙があるとのこと。また関連情報として、経営が悪化して、いたらしいこと、オープンの見込みはないこと等が得られた。「すわ！倒産！」、「いや、倒産ではないが営業しないそうだ。」「やつぱりなし、どおりで安いはずだ。」

かくして三ヵ月後、良好な経営状態にある？別のゴルフ場で楽しく記念ゴルフコンペが実施されイベント担当もほつと

裏話その二

パーティに先立つ総会で期生会の会則を今後の活動に適合するように改正するものが各期とも慣わしのようですが、七期生会も新会則を制定しました。改正案審議のための役員会を開いた時の一コマです。

「えー、今後活動するための期生会費が少なくなつておりますので弔事の場合、試算しますと、会員五〇〇名中、約二〇〇名までしか生花を供し得ない…」、「おい、早い者勝ちということか？（一同絶句！）」、地獄の沙汰も金次第ではないが、結局、全員平等になる一番安価な弔電となつた次第です。

裏話その三

やはり準備段階で一番活躍したのはeメールでした。これまでの電話や印刷物での調整に変わり、メールを多用したおかげで、随分事務方は楽になり、IT様々だつたのですが、思わぬ落とし穴？がありました。

当時十七期生は後輩期から、「十七期生公害？」と嫉まれるほど陸、海、空各幕等に部長クラスが補職されており、もちろん同期生として一致団結して行事の準備に当たつたのですが、お偉い方ほど川柳にある、「eメール、メール届いたかと電話をし…」の様相を呈したのです。着信メールに返信する暇もないほどの激務だったからと察しますが、まさかIT時代にeメールが嫌いな同期生はいないと信じております。

まだまだ裏話は尽きぬところですが、紙面独占は十七期生会の評判を落とすだけですのでこれまでとしますが、市ヶ谷勤務者を中心には準備に万全を期した甲斐あり、本番では各行事とも大いに盛り

上がりをみせ、盛大な三十周年記念行事となりました。

27期生会

◆会長—小林 茂



▲全員で歌う 遣遥歌

二十七期生会は平成十五年二月、「防大卒業二十周年記念同期生会」を、グランドヒル市ヶ谷において実施しました。

陸・海・空全体としての同期生会は十一年振りということで、北は北海道、南は九州、更には米国から陸上自衛官六十七名、海上自衛官十七名、航空自衛官三十三名の現職と、今は民間企業等で活躍しているOB二十九名の合計一四六名の参加を得ての開催となりました。また、来賓として当時の指導官六名の方にも出席頂いて非常に盛会となりました。

我々、二十七期生会も一九八三年三月の卒業以来、早二十年を経過して不惑の年を迎えております。この間、相貌もそれなりになつて実際にかなりの変貌を遂げている者も少なくありません。しかししながら、久しぶりに会うと必ずと言つていいほど「全然、変わらないな」の一

言から始まります。年はとっても懐かしいそれぞれの持つ雰囲気は変わらず、そのことが変わらないという印象を与えているのかかもしれません。

会は、実行委員長の尾島君（海）の挨拶に始まり、当時期担当大隊指導官をされていた中村征人様及び長池政彦様から祝辞を賜り、中村君（空）のにぎやかな乾杯の発声で幕が切つて落とされ、當時を懐かしむ話の輪と笑い声に終始した楽しい会となりました。今回は、海外勤務中で特に参加が困難な防衛駐在官や留学中の同期生に現況報告を送つて頂いて皆の前で紹介し、海外勤務者にちょっとした参画気分を持つてもらうとともに海外で活躍する同期を皆に認識してもらういい機会としました。

あまりの盛り上がりに予定時間を大分オーバーしましたが、最後は恒例の元応援団長丸山君（陸）の当時と変わらぬ迫力ある口上とそれに引き続く遣遥歌の大合唱で幕を閉じました。

散会後は、それぞれの大隊等に分かれて二回会・三次会と更に楽しい宴は継続しましたが、一次会を昼間の早い時間にセッテしたため、二回会以降の場所を探す苦労があつたようで、これは次回の改善事項として考えてています。

二十七期生会は、十年に一回の開催とされていますので、次の開催は平成二十一年の二月頃になろうかと思われます。その頃には皆、歳五十越え、そろそろ退官という声も聞こえてきそうな時期です。次回は現役として実施する最後の期生会となることと思われますので、日本全国、津々浦々からの参加を期待します。

最後に殉職された同期生、逝去された同期生の御冥福を祈りつつ、二十七期同

期生の益々の御活躍を祈念して期生会だよりとします。

28期生会

◆会長—田浦 正人

二十八期生の皆さん、それぞれの持ち場で活躍のことだと思います。今回の期生会だよりは、同期生の連絡網について情報提供したいと思います。

これまで、同期生への連絡は、陸・海・空・民間別にピラミッド型の連絡網を構成していましたが（そんなものあつたのかとのご批判が聞こえますが…）、我が二十八期生会も遅ればせながらIT社会に対応すべく、インターネットによる連絡網の構成を計画しています。連絡網は、ホームページを活用するタイプ、サーチエンジン上でメールグループを構成するタイプ等色々考えられます。まずは、訃報の連絡等現在ニーズの高い正面に対応できる連絡網から構成したいと考えています。例えば、某サーチエンジンが提供しているメールグループサービスを活用する案があります。しかしながら、乏しい資金と知識で四苦八苦している状態ですので、ITに詳しい同期でメールグループ等の運営の助言をいただけれる方からの連絡をお待ちしています。

また、名簿の作成もニーズの高い案件であります。何れにせよ、今後インターネットによる連絡網構成の話が伝わってきた際は、個人情報の管理面でセキュリティをどうするか検討する必要があると考えています。

（全員に伝わるかどうかが問題ですが…）、ご協力の程宜しくお願ひします。

同窓生 アラカルト

家族愛が満ちており、懲りの原点を感じます。

戦争・戦災を体験された方々が次第に少なくなりつつある昨今、この特攻の眞実とその心を、広く後世へ語り継ぐことが私たちに与えられた使命だと思っております。

「知覧特攻平和会館」 での語りべとして

七期 川床 剛士

定年退官と同時に生まれ育った知覧に帰郷して八年の歳月が流れました。

縁あつて「知覧特攻平和会館」で、語りべとして勤務以来三年になります。

この会館は、大東亜戦争末期に行われた沖縄への陸軍航空特攻隊員として散華された、一〇三六名の遺影・遺品や関係資料を展示する町営の慰靈顕彰施設です。

会館を訪れる年間七十万余の老若男女の方々に対し、他の二人の語りべとともに對攻についてお話をしております。

かつての大戦で、自らを捨て祖国の盾となつた多くの戦没者の方々の尊い犠牲とその限りない加護の上に、今の日本の平和と繁栄があります。

特に特攻隊は十七・十八才の少年飛行兵や学徒出身の見習士官等若い方が主力です。彼らは決死隊員ではなく、必死隊員でした。死を覚悟の上で過ごした数少ない日々に書き残した遺書・手紙には、国やふるさとを愛し父母兄妹を想う

種村良平君の(株)コアの 東証一部上場を祝う

七期 (陸 機械) 川瀬 亮二

平成十五年十月十七日 (金) 東京明治記念館において防大七期生有志による「種村良平君の経営する(株)コアの東証一部上場を祝う会」が催された。遠くは山口、広島、神戸、大阪等から駆けつけた同期生を含め五十名の七期生が、種村君

の快挙をお祝いした。

種村良平君 (七期・陸上・応用物理) は、防大卒業と同時に民間に出でソフトウエア会社に入社し、十年間ソフトウエア技術者として勤務した後、昭和四十八年 (一九七三年) コアグループを立ち上げ、本格的にソフトウエア業として独立した。

その時、種村君に同調して設立したばかりのコアグループへ移ってきた部下は、一年間で約七十人に達したという。このことは三十歳代の若い頃から、既に企業家としての信頼と多くの人達から慕われるカリスマ性を持っていた証左であろう。

コアグループの中核会社である株式会社コアが、今年三月二十日に東京証券取引所市場第一部 (東証一部) に直接上場を成し遂げた。種村君は、その(株)コアの代表取締役会長 (最高経営責任者) として(株)コアは勿論のこと、コアグループ全体を統括し、素晴らしい経営手腕を發揮し続けている。

現在コアグループは、連結売上高一七八億円、社員一〇〇名、グループ会社十六社を有する企業グループと日本全国にコア学園十校を有して、IT産業界の独立系のリーダー企業として発展を続けている。

種村君は、コアグループ発足当時「コアグループ経営方針」として次のことを示している。

①情報サービス産業の「核」すなわちコアになろう。

(2)経営理念

・「夢・理想・方向」の旗

・常に前向きに挑戦

③独立系、分社式、全方位ビジネスの先端 技術集団たれ。

この経営方針は、三十年後の現在においても、コアグループ経営の基軸として、いささかもぶれていない。

「祝う会」の席上、種村君は挨拶し、ひとつには人に恵まれたこと、ふたつは防大の教育・生活が現在の自分の基礎を作ったことを強調した上で次の三点を述べた。

①「バス一台論」でグループ経営

バス一台の乗客の規模 (七十人八十八人) が会社経営にとって、いちばん大きい大きさだ。

ベンチャー企業には能力がある人間がどつと集まつてくることは、正直不可能なことだ。

資金を考えても大企業のように何百人も採用することは出来ない。ベンチャー企業にとって重要なことは、「活性化」「エネルギーを結集させること」だ。

技術者集団として、分野に特化し専門化することでバス一台一台を走らせ、それぞのバスに目的を持たせて、どこへいけばいいかを決定させ運行させている。

今もグループ制を敷いており、今後も続けていくつもりである。

②スローガンを持つこと

夢 (十年先)・理想 (三五年先) 方向 (一年先) のビジョンを持つことはも

のすぐく重要なことだ。私は、防大卒業以来ずつとこのビジョンを実行して来た。また、ベンチャーエンタープライズでは、Simple、Speed、Self（自立・自律・自強）が、キーワードになる。今コアグループでは、この3Sを入れて「3S—CTAC」をスローガンとして経営している。

③人材教育の重要性

企業は儲けることが目的だが、人材を育



成することはもつと重要だと思っている。大企業や外資系企業でよく、人が足りないからと中途でたくさん人を集めたりするが、私はそういうのはあまり好きではない。むしろ新卒者をじっくり育て、長くコアグループで働いてもらおうという考え方である。

また、IT産業に必要な人材の育成に早くから取り組み、地方自治体と協力した公設民営方式で全国十校のコンピュータ専門学校や理学・作業療法士、介護福祉士養成校を学校法人コア学園として運営している。

種村君は、(株)コアをさらに出来るだけ早い時期に東証一部へ上場させるべく新たなエネルギーを燃やしている。好漢種村良平君の挑戦に、まだまだ目が離せない。

防大同窓生設立の地雷処理NGOメンバーがアフガニスタンで活動

十二期（陸） 古賀 英松

本年八月、園部宏明氏（八期・陸）、古賀英松氏（十二期・陸）の二名がアフガニスタンにおける地雷処理活動に参加した。

同OB二名は、約一ヶ月間アフガニスタンで地雷処理活動を行う国際NGO・DDG（デンマーク地雷処理グループ）のテクニカルアドバイザーとして参加したものである。

日本のアフガニスタンに対する支援活動は、難民、避難民等に対する援助の一環として、地雷対策費用全体の三十%の資金援助を行うなど、世界一位の援助国である。

外務省は、今回、アフガニスタンにおける地雷処理活動において、目に見える国際貢献の一環として「JMAS」（日本地雷処理を支援する会）からテクニカルアドバイザーの派遣を支援した。

「JMAS」は、会長 西元徹也氏（三期・陸）元統幕議長、で、理事長は、土井義尚氏（九期・陸）・元陸自補給統制本部長である。同会は二〇〇一年九月、自衛隊を退職した防大同窓生を中心自

法人は日本地雷を処理する会（JMAS・ジェイマス）のメンバー（顧問）である。アフガニスタンは、世界でも一、二位の地雷汚染国と言われ、約一千万個の地雷と又大量の不発弾が遺棄され、その結果、一日十五人から三十人の被害者が発生していると推計されている。アフガンにおける地雷処理は社会経済開発の重要な前提であり、UNMACA（アフガン国連地雷処理センター）の指揮のもと国際NGO二個チーム（前述のNGO・DDGの他一個チーム）と、現地ローカルNGO六個チームの計八個チームが活動している。UNMACAは二〇〇三年一二〇一二年までの十年間に地雷除去を完了する計画であるが、その活動はまだ始まつたばかりで今後の成り行きが注目されている。



アフガンにおける地雷処理活動

にして、読売新聞社より「読売国際協力賞」を受賞した。なおJMASは防大同窓生からの寄付及び会員を受け付けています。詳しくはホームページ

<http://www.jmas-ngo.jp>を参照されたい。

海上自衛隊を退いて 一年余

十三期（海）川村 成之

平成十五年、何かと話題になつた冷夏も去り、天下は既に秋、そして、この一文が同窓会誌に掲載される頃には冬を迎える、その時一番話題になつてゐるのは、イラクに派遣され、後方支援任務に当たつてゐる陸上自衛隊隊員の皆様が、厳しい情勢の中で「正当防衛・緊急避難」に限定された権限の下、大変ご苦労をされているのではないか？と思ひを馳せております。杞憂であれば幸いです。

さて、私事になりますが、平成十四年九月、青森県上北郡六ヶ所村にある警備会社「株ニユーテック」に再就職しました。六ヶ所村には、国家の原子力政策を支えている日本原燃株があり、既に稼動している「濃縮・埋設事業所」と現在建設途上の「再処理事業所」があります。

この地区に投資された資金は既に約二兆四〇〇〇億円に達し、原子燃料サイクル事業は国家的な大プロジェクトです。

私の勤める会社は、六ヶ所村「大石平」のウラン濃縮工場及び「弥栄平」の使用済み燃料貯蔵センター・高レベル放射性廃棄物貯蔵センターに警備システムを設置し、これを警備員が運用して核物質防護に当たっています。また、建設中の再処理工場が完成すると使用済み燃料からMOX燃料（ウラン・プルトニウム）



建設現場全景

仕事の上で自衛隊時代を彷彿させる環境に加え、我が会社員（青森在住約一〇〇名）に占める陸・海・空自衛隊OBの比率が四十～五十パーセントに達し、かつ海上自衛隊出身者が十五名強もいます。私は、青森県で勤務した経験がなく皆さんとの面識はなかつたものの、「陸・海・空」服の色は違っていても、同じ文化を共有できる方々が数多くいるのは心強い限りです。更に、六ヶ所村には防大十一期陸上要員の先輩が二人もいます。一人は政府のオフサイトセンターで勤務されている「島津」さん（サッカーチームの先輩でもあります）、もう一人は我が会社の上司で青森県隊友会会長の「君嶋」さんです。

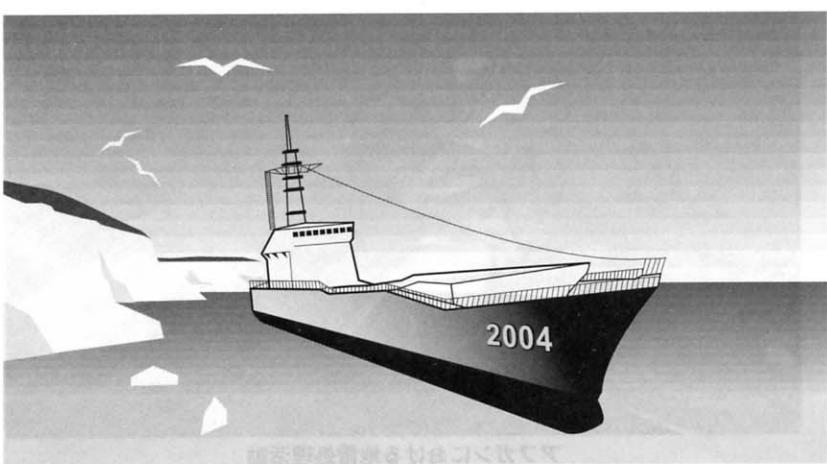
私は、第二の人生で警備業を選択した

一達に明確な目的意識を提供するとともに、千変万化する盗取、妨害破壊行為等や警備環境に柔軟に対処するための端緒を与えるものです。また、あらゆる教育訓練の基盤となります。

訓練と言つても當利を追及する民間企業では、委託を受けている警備業務に間隙を作らず、警備能力の最大発揮が要求されるから大変です。そこで止むをえず頼つたのが海上自衛隊で経験した団上演習の手法です。しかし、この種訓練の経験を持たない方々に演習比率とか通信票や動作票などについてご理解頂くのですから、訓練参加者には相済まない気持ちで一杯でした。それでも何とか訓練を終えた時、皆さんのお顔に何がしかの満足感が伺えたのが救いでした。

（青森県下北郡六ヶ所村より）

ため、仕事の面でも人の面でも随分恵まれた環境にあるといえますが、自衛隊流のやり方でその延長線上を歩いている訳ではありません。先に入社された方々が「郷に入つては郷に入れ」の精神を大いに發揮され、こうべを垂れて若い人に伍し頑張っている姿を目の当たりにして、頭の下がる思いを禁じ得ませんでした。この気持ちを大切に、息長くこの道を辿ることが第二の人生の目標と考えています。



支部だより

北海道地域支部

支部長 工藤 義弘

◎支部の概要について

北海道地域支部は平成九年九月に地域支部としては全国に先駆けて発足、初代樺山貢（三期陸）支部長のもと、地道で着実な活動により、支部の組織基盤を確立してまいりましたが、地域支部の特性を踏まえ組織の若返りを図るため、平成十四年八月から工藤義弘（十二期陸）が支部長に就任し、現在に至っています。

支部の会員は、現職会員九〇〇名、退職会員一八〇名、計一〇八〇名で、現職の会員が圧倒的に多数を占めかつ分散しております。海上、航空については、全道の基地等をまとめてそれぞれ一部を、退職会員については全道で一部を組織し、全部で二十九個の地区支部を以つて構成されています。

◎支部の事業について

支部独自の活動をするため、一人年会費五〇〇円を徴収し、次のような事業を実施しております。



▲防大入校者に対する記念品の贈呈

○会員名簿の作成・配布
毎年一回年度の初めに会員名簿を作成し、全会員に配布しています。最新の状況を把握して作成するよう努力していますが、現職会員の異動が激しく、手元に届いた時には既に転出入により変更されている状態です。

名簿の配布は、会員に対する最低限の義務と認識しています。

○防衛大学校入校者に対する記念品の贈呈
北海道出身の防衛大学校入校者全員に対して記念品を贈呈しています。

○防衛大学校入校者に対する記念品の贈呈
入校を祝福し、激励する目的をもつて記念品を贈呈しています。

○その他

防衛大学校学術教育振興会に対する支援、北部方面隊創立記念行事等に対する支援の実施

○総会・懇親会について
支部の特性上、毎年実施することが出来ず通常年度については代議員会の決定を以つて総会に代えています。創立総会以降実施していないので来年度は総会・懇親会の開催を考えています。

○防衛大学校創立五十周年に伴う同窓会
地域支部の記念行事について
平成十五年二月二十二日（土）札幌市内のホテルライフォート札幌で一七〇名の会員の参加を得て、前段「講演会」、後段「記念会食」の二部構成で実施いたしました。

前段の講演会は「防衛大学校創立五十年を迎えて」と題して、安岡義純防衛大学校副校長を講師に迎えて、防大の変

最後になりましたが、同窓会会长から祝電を賜り、また同窓会本部より様々なご支援を頂きましたことを、あらためてお礼申し上げます。



▲防大創立五十周年支部記念会食

東北地域支部

支部長 小関 隆久

東北防大同窓会は、平成十一年二月二十七日発足以来五年目になるが、現在の会員数は退職会員約100人、現職会員約700人、合計約800人であります。

平成十四年度の事業としては、例年恒

常に実施している年度の事業のほか、東北「防大創立五十周年記念」の事業の実施でした。東北地域支部としては、前

回の「小原台だより」に投稿が間に合わなかつたので、今回東北で実施した防大創立五十周年記念の事業について述べてみたいと思います。

防大創立五十周年を祝し、東北地区の同窓生が一堂に会し、同窓生としての品位のある厳粛な式典と会員相互の懇親を行なうこととして、平成十四年四月に準備委員会を総成しました。この準備委員会は退職会員と現職会員が半々づで約二十数名で構成し、私、小関隆久（陸六期）が準備委員長となり、退職会員は小森重信事務局長（陸九期）、現職会員は吉田守利事務局次長（陸十五期）と熱海正博事務局次長（陸十八期）がリーダーでした。

準備委員会は、四月から十一月までの間合計六回実施し、相互の意思の疎通と各事業の計画の作成等を行ないました。時間は平日の一七・〇〇過ぎから約二時間とかなりハードでしたが、各委員はこの事業の成功を期して熱心に取り組みました。特に、現職会員の永井誠氏（陸一十三期）や鈴木実氏（陸二十九期）には、

各駐屯地との連絡をはじめ大変な努力をしていただきました。また、準備委員会での最大の懸案は、東北六県の陸・海・空の駐屯地、基地から各会員を仙台市まで輸送することでした。バスやレンタカーの借り上げ、JRによる移動等とその経費の負担等は袖井孝氏（陸九期）、田村直幸氏（陸四十一期）の両会計幹事の手腕に負うところが大でした。

十一月に入ると準備委員会のメンバーを核心として実行委員会を総成し、MMを実施して本番に備えました。

十一月十七日（日曜日）の記念行事の日は、朝から秋晴れの好天に恵まれこの記念行事の成功を予感させるものでした。一四・三〇の式典開始までは一番遠方の青森県をはじめ各県から続々と集合し、予定通り開始することができました。参加者は、退職会員四十七名、現職会員一四五名、招待者・父兄等二十名の合計二二二名であり、現職のトップは陸海が東北方面総監の野中光男氏（陸十二期）、海は大湊地方総監部幕僚長の武田壽一氏（海十九期）、空は第四航空団司令の安宅耕一氏（空十五期）でした。

式典は参加者全員による「国歌」の齊唱で始まり、阿部賢吉東北防大同窓会長（陸二期）の挨拶と、野中光男東北方面総監の現役代表の挨拶及び元防大指導官の千葉巖氏の祝辞と続き、祝電披露の後、ビデオ「任重く道遠し」を鑑賞して厳粛の中にも時を偲びながら終了しました。

続いて、隣に場所を変えて祝賀会食に入り、先ず全員で学生歌を齊唱した後、渡邊政直東北防大同窓会顧問（陸一期）の乾杯で祝宴を開始した。この祝賀会の配席は、一期～五期・六期～九期等と数期毎のテーブルとしたため、祝宴開始と

ともに各テーブルで旧交を温め、昔の話等で大いに盛り上がった。また、途中で「防大時代の思い出」のスピーチを、上口信行第二十二普通科連隊長（陸二期）、加瀬典文第四航空団装備部員（空三十四期）及び村井嘉浩宮城県議会議員（陸二十八期）がそれぞれ実施した。

そして最後に、全員で肩を組み逍遙歌を斎唱した後、一番若い期の佐藤成浩第十二普連小銃小隊長（陸四十六期）の万歳三唱で無事終了した。この式典・祝賀会食を通じて弁舌さわやかな司会をし、会を盛り上げたのは仲村悦義氏（陸十二期）でした。

次に十四年度の事業ですが、例年恒常的に実施している「防大三学年部隊実習時の支援」と「防大二次試験時の防大教授等との意見交換、懇親会」は、計画通り行いました。特に後者は東北防大同窓会が主催で行ない、防大教授等三名、同窓会は会長以下九名、現職は東北方面総監以下十名でした。また東北方面総監は前職が防大幹事であったこともあります。いろいろと話題も盛り上がり有意義な意見交換・懇親会になりました。

○陸・八戸・弘前・岩手・多賀城・福島・郡山

○海・大湊・八戸

○空・三沢・松島

第二は、東北防大同窓会費の徴収です。各種事業の実施、現役学生の支援等、すべて予算が無いと出来ないので、会費の徴収についてはここ数年かけて各支部の意見を聞く等検討を続けてきました。そして今年から徴収を開始しましたが各支部からは順調に納入されています。

そこでは、東北防大同窓会の今後の課題としては、積極的に活動されている他の地域支部の事業等を参考にして、懇親のための事業や母校支援の事業等をより活発に進めて行くことです。

最後に、会員諸兄の今後との協力をお願いして、支部の報告とさせていただきます。

十周年の本部行事へ会長以下二名の参加、東北防大同窓会代議委員会の開催等

【事務局運営先】

事務局長 十期 大越 雅行

TEL〇二二一三二一五四三七

FAX〇二二一六一一七一四三

総務幹事 十三期 勝美 治

TEL〇二二一三二一一一一

（内線三六五二）

大アメリカンフットボール部が仙台市において東北大學と対戦することになり、同窓会長及び野中東北方面総監等約七十名の同窓生が応援・支援した。

平成十五年度の事業は計画通りに進めております。先ずその第一は「防大三学年部隊実習時の支援」ですが、今年は各駐屯地の要望も増え、次の十個の駐屯地・基地の同窓会支部を通じて支援をしました。

北陸地区支部

事務局長 西川 清

私は、北陸三県を取りまとめる防大同窓会北陸支部（略して北陸防大同窓会と称します。）の事務局長 西川清（十五期）です。

北陸防大同窓会の設立から現在までの状況を紹介いたします。

一 設立総会まで

平成十三年十二月に石川県隊友会会長の真館薦氏（五期）から、同窓会の北陸支部を作ろうと思うので、協力してくれというのが始まりでした。それは、隊友会の総会時に東海支部の江戸満会長より、「北陸でも支部を同窓会の五十周年記念行事までに組織したら」と進言がなったようになります。

早速真館氏の指示により、設立準備委員を石川県中心に指名して、十四年一月末に第一回の設立準備委員会の開催にこぎつけました。以降、八月上旬まで数回の委員会を開催し、この間、会員の把握、設立の趣意書の発送、会則・役員・設立総会の日時等の設定、設立総会の案内の発送等の諸準備を進めました。

当支部の会長に久保正佳（三期）、副会長に福井県隊友会会长吉村健思（三期）、富山県隊友会会长内島靖雄（四期）、石川県隊友会会长真館薦（五期）の各氏に就任していただきました。なお、会員数は、現役七十名、OB六十四名でした。設立総会は、十四年八月二十五日（日）

に六十八名の参加を得て、開催致しました。

引き続いて、金沢工業大学の泉屋理事長に講演をしていただきました。懇親会は、来賓五名の参加を得て、和やかに懇親の輪を広げました。最後に肩を組み逍遙歌を齊唱し、感激のうちに閉会することできました。

北陸支部の設立に際しまして、同窓会本部からの多大のご支援に感謝申しあげます。

北陸支部の設立に際しまして、同窓会本部からの多大のご支援に感謝申しあげます。



◆逍遙歌を齊唱する会員

で、孟宗竹を伐採するのが仕事でした。この経緯は、同窓会の五十周年記念行事に三浦朱門氏に講演を依頼し、その御礼に、阿部同窓会会长が自宅に行かれたところ、奥方の曾野綾子女史（日本財団会長）からボランティア協力の依頼がなされたようあります。

曾野綾子女史は、旧制の金沢高等女子学校に席を置いておられたようです。同窓会本部から情報や計画をいただき、石川県の役員で対応するように決定しました。

ボランティア支援の当日は、集合場所に全員集合し、日本財團関係者及び同窓会本部の古賀氏と合流して、現地の山莊に向かいました。現地では、遠来のボランティアや地元の参加者、それに報道関係者（この人達もボランティア）など多くの方が来ておられました。昨年から参加している人も多いようでした。

ボランティア支援の当日は、集合場所に全員集合し、日本財團関係者及び同窓会本部の古賀氏と合流して、現地の山莊に向かいました。現地では、遠来のボランティアや地元の参加者、それに報道関係者（この人達もボランティア）など多くの方が来ておられました。昨年から参加している人も多いようでした。

三 第二回総会・講演会・懇親会の開催

三月末に役員会を開催し、総会・講演会・懇親会の時期を八月末と決定し、準備を進めてきました。最も心配したのが、参加者数でした。

会員の把握、案内状の発送、議案等の取りまとめ、会計監査の実施など準備を進め、八月二十三日（土）に来賓を含め四十六名で開催致しました。

今回の講演は、第十四普通科連隊・連隊長兼金沢駐屯地司令の高橋一佐にお願いし、「防衛雑感」として講演していただきました。

懇親会も昨年同様、楽しく懇談いたしましたが、北朝鮮を正面とする支部という一面から、現役のスピーチの中には現実味を帯びた話もあり、有意義な会となりました。



◆曾野綾子女史を囲む参加者

現地では、昨年、伐採した跡地にクヌギを植樹し、さらにその地域を広げるための伐採を実施しました。体力のいる作業でした。

作業終了後、山荘の庭に全員集まり、曾野綾子女史を囲んで懇親会が行われました。皆、作業を共にしたという仲間意識ができ、お酒、ビール、タケノコ料理、焼き肉などを美味しくいただき、話も弾みました。

来年も参加しない訳にはいかないようですから、参加範囲を広げるべく検討したいと思います。

東海地区支部

事務局長 仁木 一男

東海支部は、愛知、三重、岐阜の三県を範囲として平成十二年十一月に発足し満三歳を迎えました。現職会員約三六〇名、退職会員約三〇〇名計六六〇名の中規模の地域支部です。

江戸満会長（陸上一期）の「東海支部を縦糸として、同期生会・中部小原台クラブ・親交グループを横糸として、相俟つて東海地区同窓の味を増し、素敵な色彩を生み出す」の方針と会長、副会長、理事などの役員の固い団結と協力のもと会の目的を十二分に達成しつつあります。

この一年間を振り返りますと次のようにイベントがありましたので、かいつまんでご報告します。

- ・十四年十一月 防大での五十周年行事に参加
- ・十四年十二月 第三回総会
- ・十五年 二月 中部小原台クラブ総会
- ・十五年 四月 ゴルフ部会の発足
- ・十五年 七月 防大生の部隊実習の激励
- ・十五年 十月 囲碁部会の発足
- ・十五年 十二月 第四回総会

防大での五十周年行事に参加

江戸会長以下副会長、理事、事務局長等総勢五名が支部から参加しました。新しい本館・記念講堂には目を見張るものがあり、これは関係各位の並々ならぬ熱意により実現したものと同窓生として感

謝しております。又、五十周年記念事業の数々を見事に達成されました記念事業委員会の皆さんのご努力にあらためて敬服の感を抱きました。



▶ 江戸会長挨拶

第三回総会

今回は防大創立五十周年と言うこともあり、又、記念事業委員会及び同窓会本部からの資金援助もあると言うことで、今までの総会より華やかで、ご家族にも樂しんで戴くという趣旨でコンサートをやろうと言うことに決まりました。第四回総会は、平成十四年十二月十五日、JR名古屋駅近くのホテルキャッスルプラザで、来賓として北陸支部会長の久保正佳氏（陸上三期）、関西支部会長の中一皓氏（航空七期）を迎えて、現職会員四十五名、退職会員七十名、ご家族十一名の参加を得て開催されました。

総会は、同窓会本部からお借りした国旗及び防大校旗を会場正面に掲げ、ソプラノ歌手・下垣真希さんの国歌独唱が始ままり、江戸会長の挨拶、事業報告と計画、



▶ 下垣真希さん
おしゃべりコンサート

「へえー、昔の小原台はあんただつたんだ！」
との声があちこちでありました。

り、好評でした。

懇親会で

決算報告と予算計画、会員現況等の報告が行なわれました。

総会に次いで、メイン・イベントである下垣真希さんによる「おしゃべりコンサート」が開かれました。下垣真希さんは、愛知県立芸術大学卒業後、ローラン・ラクレの財団奨学生としてケルン国立音楽大学に留学。九年間にわたるドイツでの音楽活動のかたわら、国際ラジオ局でディスクジョッキーとして人気を博しただけあって、機知に富んだお喋りと二〇〇〇年ドイツ・ハノーヴァー万博の閉会式でアジアの代表曲として発表した「日本の四季」の懐かしい曲を美しく澄み切ったソプラノで歌い上げ、参加者を堪能させてくれました。下垣さんは聴衆の反応に気をよくし、一時間の持ち時間をかなり超過してしまいました。休憩時間におけるCDのサイン会も長蛇の列で、持ち込まれたCDを完売し、「もっと持つてくればよかった」とのことでした。

コンサートの後は、記念事業委員会が開催された。記念事業委員会が開催され、主に北陸支部の久保正佳会長からは、発足経緯とこれからの抱負が力強く語られました。再び祝宴に戻り、久しく会つていなかつた仲間と酒を酌み交わし、歓談の一時を楽しみました。また、スピーチタイムがあり、新着任幹部である第十師団副師団長 瓦谷育夫陸将補（陸上十五期）、愛知地連部長 土谷貴史一佐（陸上十九期）、三重地連部長 佐藤晃章一佐（陸上十九期）の紹介があり、それぞれ挨拶を行いました。歓談の

合い間にはステージ上では、各期毎に下垣真希さんとの写真撮影があり、記念のワンショットとなつたようです。最後の締めは、どこも同じで、みんな肩を組み大きな輪になつて、学生歌・逍遙歌の大合唱。そして、最年少会員宮

島幸一君（陸上四十六期）の音頭で、元気よく万歳三唱で締めくくり。会場に掲げた国旗と校旗は好評で、「防大同窓会本部は各支部に支給したら」との意見が出していました。

防大生の部隊実習の激励

平成十五年七月、防大二年航空要員三十名が小牧基地に実習に来たので、小牧支部が歓迎会を開催し、小牧支部の現職職員の中山征治氏（航空十一期）、佐藤悠紀夫氏（航空十二期）の二名が歓迎会に参加し激励しました。

ゴルフ部会・団碁部会の発足

東海支部には、発足以来同好会はありませんでしたが、本年度からゴルフ部会と団碁部会が発足しました。ゴルフ大会は支部単独で一回、愛知偕行会と共に開催されました。ゴルフ部会の会長は、浅井忠夫氏（陸上一期）、世話人は水谷登氏（陸上十三期）、団碁部会の世話人は山上登氏（陸上十期）です。今後、北陸支部、関西支部と合同で大会が開催される日を夢見ております。

第四回総会

第四回総会は、平成十五年十二月二十日に昨年と同じ場所で開催の予定で、会長以下の役員の交代も議題にあがつております。講演会の講師として、前防衛府長官の中谷元氏を予定しており、同窓生の大臣としての「経験談を伺えるものと楽しみにしています。

関西地区支部

会長 中 一皓

平成二年暮れ、関西一円在住の防衛厅・早期退職者が中心となって、「関西小原台俱楽部」が発足した。約十年間の中田（一期陸）会長・高岡（四期空）事務局長の名コンビで地道で着実な活動が続いた。

【関西防大同窓会】発足にあたり、準備委員会では、「関西小原台俱楽部」を前進的に解消し、その資産も引き継ぐ形で、平成十一年十一月に「関西防大同窓会」として創立総会を迎えた。

初代 牧（二期海）会長・坂口（七期

陸）事務局長が、「関西小原台俱楽部」の行事を継承、それに新規行事を加えて活動な事業を開拓、平成十四年十一月の総会で、満三年間の任期を終え、会員諸兄に惜しまれながら退任された。

二代目会長の大役が一足飛びに七期の

小生に指名されるなどとは思いもよらなかつた。同窓会本部が渡辺（六期陸）会長に決まり、それに伴い当方も若返りを図るためとのもつともらしい理由からである。幸い事務局長に同期の河野（七期陸）、副会長に羽藤（九期陸）、立花（九期海）等々、有能で協力的な人材が就任していただけることになり、安心して会長の大役を引き受けたこととなつた。

前置きが長くなってしまったことをお詫びして、この一年間の「関西防大同窓会」の活動状況を紹介したい。

まず、第四回総会（平成十四年十一月）は、ご夫人同伴での多数の参加を願い、從

来の講演会をご夫人受けする楽しいエンターテイメントとして「オーストラリアのアカペラ・グループ」と重要無形文化財・茂山忠三郎の「狂言」鑑賞を実施、参加者に喜んでいただいた。今後は有意義な「講演会」と楽しい「エンターテイメント」を隔年毎に催す予定である。

本年度上半期の主要な行事として、「春のゴルフ大会」（四名参加）、「歴史探訪伏見桃山周辺の史蹟を訪ねて」（四名参加）、「私の仕事館見学とテニス大会」（十五名参加）、「講演会と懇親会」等を実施した。

下半期の行事として、「第五回関西防大同窓会・総会・講演会・懇親会」、「古刹探訪・東福寺で参禅と京料理を楽しむ会」、「秋のゴルフ大会」、「秋の歴史探訪・新撰組（第一部）」を予定している。

また、対外的な行事参加活動として、カッターコンペ（関西小原台俱楽部）チケットがある。当初は盛田君（十三期空）の掛けで、防大時代を懐かしみながら、も

づばら汗を出した後のビールの味がたまらず、週末に神戸商船大学ボンドに集まっていた。その成果を求めて、神戸カッターフェスティバル、大阪港ポート天国カッターレースに出場、過去三年は「昔取った杵柄」も三〇才後半以上が主力の我が「関西小原台俱楽部」チームには、予選通過も叶わなかつた。ところが、今年は四十期代の三名が加わり、何と出場四チーム中の三位の見事な成績、その上、特別賞「グッド・シーマンシップ賞」まで獲得した。それぞれの行事は担当者の献身的な努力で企画・実施され、参加者各位から高い評価と共に大いに感謝されている。



▲カッターコンペ

なお、それぞれの行事結果の詳細は、
【関西防大同窓会ホームページへようこそ】
<http://www.kcat.zaqne.jp/kazun/>に、各
行事終了毎に更新、過去一年間分を記載
している。是非、ご覧いただきたい。母
校、防大のホームページにもリンクして
いる。

さて、関西には、「大阪防大父兄会」(近畿二府四県の防大在校生父兄会)と、そのOB会「走水会」があり、大阪地連と連携して非常に活発な活動を展開している。当同窓会も「大阪防大父兄会」や「走水会」と相互の行事参加で協力関係を深めている。

また、今年度は、「第三次東チモール派遣群」が、田邊一佐(防大二期陸)以下五三名の主力が、大久保施設部隊(京都宇治)から派遣された。対ゲリラ警備下での道路建設・架橋設置訓練中の青野ヶ原演習場に部隊慰問の便宜をいただけたことは幸運であった。部隊は三月一日、盛大な壮行会で出発、その任務を達成して、十一月一日に帰国歓迎会が中部方面総監部で挙行される。

今後の活動目標として、一人でも多くの同窓生が喜んで参加できる環境づくりの実現が、在籍各部隊長の理解を得て関西在住の現職自衛官及びその家族も参加して、老若相陸ましく楽しめる同窓会活動と現職自衛官の心の支えとなるような活動も展開したいと考えている。



▲総会スナップ

広島地区支部

理事長 土手 義孝

新年明けましておめでとうございます。

防衛大学校同窓生及びご家族の皆様におかれましては今年もより飛躍の年として新年をお迎えになられましたことと推察しております。

昨年は、防衛大学校創立五十周年となり、歴史の節目を迎える。今年は半世紀を過ぎ、現役同窓生は、国の平和と安全はもとより国際協調の御旗のもとをきわめて重大な任務を背負うことになります。

今後の活動目標として、一人でも多くの同窓生が喜んで参加できる環境づくりの実現が、在籍各部隊長の理解を得て関西在住の現職自衛官及びその家族も参加して、老若相陸ましく楽しめる同窓会活動と現職自衛官の心の支えとなるような活動も展開したいと考えている。

さて、広島同窓会は、例年定期総会・講演会・懇親会の開催と春・秋行事としてハイキング・テニス・ゴルフコンペを実施し、広島経済圏で在住している同窓生相互の緊密な交流を推進するとともに

各種団体との交流を図っております。年度諸行事に参加しました同窓生及び家族等は、延べ三百名近くとなっております。

防衛大学校創立半世紀を過ぎ、例年と変わらない本部同窓会の運営等を抜本的に見直す時期と考えております。東京中心から地方へと同窓会活動の軸足を変えることです。

地方に勤務して、防大同窓会の恩典を受けることは極めて少なく同窓会活動は、沈滞化しているのが現状であり、これを打破することが必要です。

これからは本部同窓会が支部組織を効率的に活用し、地方でのイベントを計画するなど支部活動をより活性化する施策が求められています。本部同窓会の夢のある施策と支部への一層のご協力・ご支援が必要です。

秋季行事は、十一月一日(土)瀬野川GCでゴルフコンペを、十一月九日(日)陸自海田市駐屯地でテニスを、十一月十五日(土)広島の「松笠山」のハイキングを実施し、延べ八十名近くの同窓生その家族及び自衛隊OB並びに協力会員等が参加し盛況裏に終了しました。

なお、広島同窓会は、平成十六年二月二十二日(日)十五時~十七時の間呉阪急ホテル(JR呉駅から徒歩三分)において、平成十七年度定期総会・講演会・懇親会を実施いたします。広島経済圏に在住の現役・OB同窓生各位の参加をお待ちしております。



九州地域支部

事務局 徳永 文男

九州防大同窓会は防大創立五十周年を祝つて、平成十五年二月、福岡市内全日空ホテルにおいて「防大創立五十周年記念総会・懇親会」を開催しました。

九州各县のみならず山口県から、一期の大先輩より防大卒業間もない四十六期の幹部候補生までの退職会員・現職会員約二〇〇名が出席、盛大な総会・記念講演・懇親会となりました。

記念講演は、防大の西原正校長が御多忙中にもかかわらずお出でいただき、「最近の国際情勢と防大教育」と題しておこなつていただきました。

国際政治が専門であり、小泉首相の「对外関係タスクフォース」のメンバーでもある校長は、「国際情勢が大きく変化し、自衛隊の国際的な役割が増大する中で、防大教育などのように取り組んでいるか」という趣旨で、イラク情勢、北朝鮮情勢、米韓関係などの今後の動きについて説明され、PKOなど自衛隊の国際的な役割がますます大きくなる中、防大では「国際感覚を培う教育」が重要なことに強調。そのため、これまでの国際関係学科などのほかに「人間文化学科」を創設したこと、語学（英語）教育を重視していること、三年生になると約一割の学生が海外に派遣されること、防大で毎年一回、国際士官候補生会議を開催していることなど、時代の要請

に応じたことに取り組んでおられるのこと。さらには、試験成績の優秀な学生を公表する、教官の評価を学生にもさせるなど競争原理を取り入れていること、開かれた大学にするべく努めていることなど、伝統は守りつつも、新しい時勢・新しいニーズに合わせた幹部自衛官の養成に努めておられるとのことです。古きよき時代に卒業した者にとっては、まさに大きく変化している防大教育の現況を知ることができ、防大創立五十周年記念として、まことに意義ある講演でした。

総会・記念講演の後は、いつものようない出しながら声高く齊唱して散会。尚、この記念総会を機に九州防大同窓会長の中野純人氏（二期）が勇退、山口賢介氏（七期）が会長になりました。

七月には九州各地において部隊実習中の防大生を激励。これは、防大生が部隊実習している駐屯地・基地所在の現職会員が主体となつて激励会をやつてもらい、これに近在の退職会員も代表者が参加し激励しようというものです。毎年実施しています。今回は、福岡・小倉・佐世保・鹿屋・春日・築城の駐屯地・基地で実習中の学生を激励しました。

第四回目となる期別対抗ゴルフ大会を開催。期別対抗とは言え、同窓生の懇親が主目的であるため、各期何組・何名でも参加できることにしており、三期から十三期までの十六個チーム・六十四名が参加。「今年こそは優勝を」と練習ラ

ウンドまでやり意気込んで乗り込んでいたチームもあったようで、和気藹々の中にも期の対抗意識もそれなりに感じられる盛り上がった大会になりました。

成績は、ネットの部が優勝十期、二位八期A組、三位七期A組。グロスの部は優勝五期、二位十期、三位八期A組。

これまでには参加者が退職会員のみの大會でしたが、これからは現職会員にも参加を働きかけていこうと考えております。

九州防大同窓会には退職会員の地区支部として、各県防大同窓会があり、それぞれ活動しています。総会・懇親会、前述の部隊実習防大生の激励会への参加、ゴルフコンペなどのほか、各県所在の現職会員との交流、偕行会との交流などが主なものです。

なかでも、福岡県防大同窓会では、毎年五月二十七日、福岡市筥崎宮においておこなわれる「日本海海戦記念大会」に協賛・協力団体として数年前から参加し、有志が協賛し参列しております。この大会は、明治三十九年以来、福岡県の年中行事として催されてきたもので、日本海海戦の偉業を追憶し、わが国の隆昌と世界平和を祈念するとともに、数多くの海戦における彼我戦没者の御靈を慰靈するものです。鹿児島県防大同窓会も五月二十六日、同様に鹿児島市内でおこなわれた「東郷平八郎記念式典」に参加しました。

この一年間における活動の主なものを紹介してまいりましたが、これらは毎年の活動としてほぼ定着してきました。これを推進するため、退職会員の各期有志および現職陸海空の代表者からなる事務局役員が二ヶ月に一度会同を行っています。年に一度は、事務局役員のいない先輩期の代表者にも出席してもらい同窓会でしたが、これからは現職会員にも参加を働きかけていこうと考えております。

この一年間における活動の主なものを紹介してまいりましたが、これらは毎年の活動としてほぼ定着してきました。これを推進するため、退職会員の各期有志および現職陸海空の代表者からなる事務局役員が二ヶ月に一度会同を行っています。年に一度は、事務局役員のいない先輩期の代表者にも出席してもらい同窓会でしたが、これからは現職会員にも参加を働きかけていこうと考えております。

最後になりましたが、五十周年記念総会をおこなうにあたり同窓会本部より御支援をいただき御礼を申し上げます。

最後になりましたが、五十周年記念総会をおこなうにあたり同窓会本部より御支援をいただき御礼を申し上げます。



第七回期別対抗ゴルフ大会

**優勝 グロスの部 ネットの部 九期生
八期生**

平成十五年十月三日（金）第七回防大同窓会期別対抗ゴルフ大会が、千葉カントリークラブ川間コースで行われました。

優勝は、グロスの部を九期が、ネットの部を八期が獲得しました。

各期十名の選手で争う同窓会期別対抗ゴルフ大会も、今年で第七回となりました。今年から十三期生が新たに加わり、総勢一三〇名の大規模な大会となりました。



▲開会式で挨拶する渡邊会長

この大会は、グロス、ネットとも、各期上位七名の合計スコアで順位を決定するもので、シニア等の区分・ハンデはありません。

開会式で、今年から同窓会会長を務めることとなつた渡邊会長から「本日は、暑くもなく、寒くもなく、絶好のゴルフ日和となりました。日頃の八十分の実力を発揮するよう、選手皆さん頑張って行きましょう。」とのユーモアあふれるスピーチを受け、各選手は元気いっぱいにスタートして行きました。

ラウンド中、ラフからウッドで打つてO Bとした後輩曰く「いやあ、先輩に気（木？）を使いました。」これを聞いた先輩曰く「ラフと先輩には、カネ（金？アイアン？）を使うもんだ。」

とにかく各組とも和気藹々の雰囲気でのラウンドでした。

試合は、グロスの部で、九期が優勝の栄冠を得ることとなりました。ネット優勝は、八期でした。

試合終了後、クラブハウスで懇親会を行いました。

一三〇名の大選手団は、来年の再会と健闘を誓い合って散会しました。

記事 佐古 多田 (十二A)
(十三A)

前回までの大会では、一期生も十二期生も同じ組で回っており、十年以上も年

が違うことで、ティーショットの飛距離の違いを嘆いている先輩選手もいましたが、（全員ではありません。ほとんどの元気な先輩は後輩のティーショットを遙かにしのぐ腕をもっています。）今年は、

一期から四期、五期から八期、九期から十三期と、年齢の若い期で同じ組を組み合わせることとしました。さて、先輩諸氏の組み合わせに対する評判はいかがでしたでしょうか。

開会式で、今年から同窓会会長を務めることとなつた渡邊会長から「本日は、暑くもなく、寒くもなく、絶好のゴルフ日和となりました。日頃の八十分の実力を発揮するよう、選手皆さん頑張って行きましょう。」とのユーモアあふれるスピーチを受け、各選手は元気いっぱいにスタートして行きました。

優勝チームのメンバーは、田川、梅田、池田、小林、吉原、長崎、山口、山本、平佐、江本（順不同）の皆さんでした。続いて、ネットの部、各期とも「我が期？」との期待の中、優勝八期と発表され、代表者から「念願のネット優勝！全員この日のために日夜練習に励みました。」とのコメントがあり、会場割れんばかりの拍手でした。メンバーは、江見、五味、本間、大塚、笠井、廣重、三代、廣崎、池島、千葉（順不同）の皆さんでした。

今回の大会にも松本前校長が参加され、防大の近況等についてのお話がありました。

一三〇名の大選手団は、来年の再会と健闘を誓い合って散会しました。

実施しました。今年は、車で会場に来ている人が多いことから、ノンアルコールでの打ち上げとなりましたが、それなりに盛り上がつていました。

表彰式では、渡邊会長からグロス優勝の九期チームに、優勝杯と賞金・優勝賞品が授与されました。次いで、



▲グロス優勝「九期チーム」



▲ネット優勝「八期チーム」

順位	グロスの部		ネットの部	
1位	9期	590	8期	515.0
2位	8期	592	13期	515.2
3位	13期	594	10期	516.0
4位	5期	600	9期	520.6
5位	10期	602	5期	520.8
6位	12期	602	12期	523.8
7位	6期	616	6期	528.2
8位	11期	620	3期	530.6
9位	3期	621	2期	531.6
10位	7期	625	11期	531.6
11位	4期	628	7期	532.2
12位	2期	642	4期	535.6
13位	1期	662	1期	542.0

同窓会行事

第六回防衛大学校同窓会テニス大会が平成十五年五月十八日(日)防衛大学校テニスコートにて行われました。前日まで小雨が続き、テニス大会の開催が危ぶまれていましたが、十八日当日はやや肌寒いものの一日中曇り空の下、参加者総員元気に熱戦を繰り広げました。参加者は、阿部前同窓会会长ご臨席の下、同伴者十三組を含み、防大一期生から十三期生まで総勢一五〇名でした。参加者の中には、佐世保、岡山から来られた方もいました。

試合は、八時二十分から約一時間、O Bと現役学生とのエキジビションマッチを行い、身体をほぐしたのち、九時三十分に開始しました。

試合形式は、期別対抗とし一期から七期までのシニアリーグと八期から十三期までのレギュラーリーグに分かれそれぞれ予選リーグと優勝リーグと試合を進めました。各期の選手は防大時代の元気を呼び覚まし夕方五時過ぎまでかかつて決着を付けました。成績は下表のとおりです。

試合終了後、防衛大学校本館食堂にて、懇親会を開き、防大同窓生同志の情報交換などを話も進み、夕刻六時半、来年の再会を誓い解散しました。

第六回防衛大学校同窓会テニス大会が平成十五年五月十八日(日)防衛大学校テニスコートにて行われました。前日まで小雨が続き、テニス大会の開催が危ぶまれていましたが、十八日当日はやや肌寒いものの一日中曇り空の下、参加者総員元気に熱戦を繰り広げました。参加者は、阿部前同窓会会长ご臨席の下、同伴者十三組を含み、防大一期生から十三期生まで総勢一五〇名でした。参加者の中には、佐世保、岡山から来られた方もいました。

朝七時過ぎから総員による砂入れ、ロープ掛けなどコートの整備や本部テントの設定などの大会支援をして頂きました。

当日、防衛大学校硬式テニス部員には

朝七時過ぎから総員による砂入れ、ロープ掛けなどコートの整備や本部テントの設定などの大会支援をして頂きました。

朝七時過ぎから総員による砂入れ、ロープ掛けなどコートの整備や本部テントの設定などの大会支援をして頂きました。

記事 小森谷(十二N)

換などで話も進み、夕刻六時半、来年の再会を誓い解散しました。

第六回期別対抗テニス大会

六期生三年連続制覇

防衛大学校同窓会が主催する各期対抗の親睦・交流行事として第五回目の囲碁大会が九月六日(土)日本棋院会館において実施された。当日は、一期生から初参加の十三期生までの選抜棋手九十五名が一堂に会し、素晴らしい熱戦が繰り広げられた。開始に先立ち、渡邊同窓会会长の挨拶の後高比競技委員長から競技実施上の諸注意があり、九・三〇熱戦の火蓋が切られた。

競技は、各期対抗方式(個人戦集計方式)で実施され、予め決定していた対戦表に基づき、オール互先、先手六目半コミ出しとする四回戦で実施された。対戦結果を壇上に設置したチャートに掲示しつつ、緊迫した雰囲気の中で昼食をはさ

み、午前・午後各二回戦の対戦を行った。対戦終了後表彰式に移り、優勝した六期生の代表に渡邊会長から優勝カップが授与された。引き続き高比競技委員長の乾杯の音頭により懇親会に入り、激戦を振り返りつつ和やかな歓談のうちに本大

会を終了した。

なお、四戦全勝の選手は次の十三名です。

一期生 木原選手

二期生 三石選手

三期生 小野選手、清水選手、満井選手

四期生 仲地選手、榎田選手

五期生 高瀬選手、萩原選手、松井選手

六期生 浜本選手、壺内選手、志賀選手、

七期生

記事 大西(十三A)

第五回期別対抗囲碁大会



▲熱戦の囲碁会場

期別成績表

期別	1回戦	2回戦	3回戦	4回戦	合計	順位
1	5-2	3-4	4-3	4-3	16-12	5
2	4-3	4-3	4-3	3-4	15-13	7
3	3-4	6-1	7-0	3-4	19-9	4
4	6-1	4-3	6-1	7-0	23-5	3
5	2-5	4-3	2-5	3-4	11-17	11
6	7-0	7-0	6-1	7-0	27-1	1
7	6-1	7-0	7-0	5-2	25-3	2
8	4-3	4-3	1-6	3-4	12-16	10
9	5-2	1-6	3-4	6-1	15-13	7
10	4-3	5-2	3-4	4-3	16-12	5
11	3-4	4-3	4-3	3-4	14-14	9
12	2-5	3-4	3-4	3-4	11-17	11
13	0-7	0-7	1-6	0-7	1-27	13

顕彰碑 献花式

防衛大学校卒業の自衛官殉職者及び在校殉職者の靈を慰める十五年度の顕彰碑献花式が、防衛大学校人文館に隣接する顕彰碑前において、十一月八日（土）、しめやかに執り行われた。

この顕花式は、例年、開校祭行事の一環として、同窓会（小原台事務局担当）が行っているものである。

当日の朝は、觀音崎周辺に名物の濃霧が立ちこめ、数メートル先も見えないような状況であったが、昼前から一挙に晴れ渡り、献花式の挙行された一三・三〇時点においては、小原台全域が紅葉に彩られた秋晴れの好天となつた。

式には、同窓会会长、各期生会代表、同窓会事務局長以下事務局員等同窓会関係者、校長、副校長、幹事、訓練部長、各教授等学校関係者及び学生隊学生長以下、学生代表、儀仗隊、吹奏楽部等の在校生が参加した。

なお、献花式に先立ち、学校本部庁舎大會議室において、同窓会会食が行われ、同窓会会长から、当日の献花式等の準備・実施にあたった小原台事務局員に対



▲同窓会会长の慰靈の辞

するねぎらいの言葉、同窓会の在り方、同窓会の当面する問題点の紹介等について挨拶があり、また、防衛大学校幹事から、防衛大学校の現状、改革・改善の方針等について紹介があった。最後に全員で逍遙歌を斎唱して会食を終了した。

今回の同窓会会食、献花式は、小原台事務局長の西井一空佐を実行委員長として、学校に所在する同窓生全員の献身的な支援があつて、成功裏に終了したものである。

記事 事務局 多田

平成15年度臨時代議員会



▲新執行部紹介の場面

一、二〇〇三年六月二十日G/H市谷で開催された臨時代議員会（議長嶋野隆夫氏、陸十期、委任状送付者を含めて代議員八九名参加）において、次の議案が原案通り承認されました。
 （一）記念事業委員会報告（「事業会計決算報告」、「会計監査報告」、「事業会計残額の取り扱い」）
 （二）MCI事業案（「15年度事業の実施要領」）

（三）14年度同窓会決算報告等（「決算報告」、「会計監査報告」、「財産目録」）
 二、六月三十日をもって退任する現執行部を代表して阿部会長の挨拶、同日で解散する記念事業委員会を代表して佐久間委員長の挨拶が行われた後、七月一日をもって上番する渡邊会長以下、新執行部の紹介が行われました。

「同窓会会員名簿」追加申込みの受け付け

同窓会本部においては、昨年末に発行しました「防衛大学校同窓会会員名簿」の追加申込みを受付けております。

本名簿は、平成四年の初版、平成十年の第二版に次ぐ平成十五年の第三版で、内容及び申込要領等は下記のとおりです。

昨年の「小原台だより」、「防衛大学校ホームページ」、新聞「朝雲」、代議員会等を通じて名簿発行のお知らせと申込み受付けをいたしましたがなおも広報不足か、会員の中にはこの発行をご存知ない方が多数おられることがその後の各方面からの情報を通じ判明しました。次回の全面的な名簿データ更新と発行は概ね五年後になるものと予測されます。従ってご希望の方は、現有在庫に限度がありますのでなるべく早く申込まれますようお願い致します。

なお申込み者は、会員に限定しておりますが近年の世情に鑑み、名簿の取り扱いについてはくれぐれもご配慮の程お願ひ致します。

(追伸)
15年内に購入された皆様へ

本冊の巻末に索引部分（「あいうえお順」、「出身県別」及び「校友会別」）がありますが、この中の「あいうえお順」と「出身県別」に海・空の会員が欠落しているという不備がありました。是正処置として索引部分だけを再作成したものを本冊にそえて送らせていただきます。ご容赦の程、宜しくお願い申し上げます。

●掲載会員数

本科一期～四七期までの二万三百数十名、理工学研究科一期～四〇期プラス安全保障研究科一期～五期までの計二千数百名及び留学生百数十名

●申込み要領

氏名、期別、要員、出身高校、校友会活動、現住所、電話番号、勤務先名等

(一) 本誌に同封のはがき又は市販のはがき（期別、氏名、名簿送付先住所を記入）
[防大同窓会本部 〒160-1000 東京都新宿区本塙町二二二二一] (二) 電話：Fax (03-3351-1891) 専用電話：Fax (八一六一-八八九五)

(三)電子メール

(アドレス bodaij@nifty.com)
(期別、氏名等はがきと同じ)

●価格

一部 三、〇〇〇円(梱包及び送料込み)

●送付要領及び代金の支払い

宅急便（クロネコやまと）による代引き微収（現物引き換え）

会費納入のお願い

同窓会事務局長 新井 宏（陸九期）

一 同窓会の危機

同窓会事業に係わる経費は、主として当該年度新会員が納入する終身会費で賄われています。そして余剰金は、将来増額が予想される事業（例えば、会員の高齢化に伴う弔意費用）及び新規の事業のため、後輩に引き継ぐ積立金として着実に増やしてまいりましたが、下表の通りここ三年は、積立金を約四〇〇〇万円取り崩さざるを得ませんでした。

このような状況が続けば、同窓会としてやるべきこと（同窓会員相互の親睦、防大生に対する支援等）も十分に出来ず、十数年で後輩に引き継ぐ積立金がなくなるのではとの危機感を持っています。

これは、この三年間、新会員（四期、四五期、四六期）の会費納入率が低かったことが主要な原因の一つです。この点については、会費完納会員から不公平感が出ており、同窓会の財政基盤のみならず精神基盤を揺るがす問題との危機感も持っています。

同窓会財務表

[単位：円]

年度	年度収入	使用実績	積立金繰入額
10	31,248,771	28,784,926	2,463,845
11	25,782,967	19,428,117	6,354,850
12	11,360,620	18,386,950	-7,026,330
13	7,028,562	21,253,541	-14,224,979
14	10,733,689	29,071,745	-18,338,056

現在、同窓会としては、財政再建のため支出の削減に配慮した平成十六年度予算を策定中であり、また、同窓会のあり方検討において中期的・抜本的に会費収入と支出の財政面でも如何にあります。この点においては、要約すると、現在の同窓会は、財政基盤の精神性基盤の危機が顕在化する傾向が出ています。

二 お願ひ

同窓会は、「会員の親睦」、「母校の発展」及び「社会的活動」に寄与することを目的とし、各事業を実施し、活動しています。事業実施にあたっては、皆様の会費納入が不可欠であります。

同窓会に対するご意見のなかには、終身会費六万円は高すぎるとのご意見も一部にございますが、三尉初号俸の四分の一は昭和四十四年度以来三十数年間にわたり変わっておりません。現時点での変更は、不公平感を更に助長するとの考え方から引き続き維持していくこととなりました。また、同窓会の活動が見えないとのご意見に対しましては、謙虚に反省し各種の施策を講じてまいりたいと考えています。例えば、防大生に対する各種支援事業につきましては、同窓会からの支援である旨が明確に多くの学生に見える形で執行すべく検討しています。

さらに、会員各位につきましては、MCI事業の一環として同窓会ホームページを立ち上げ、充実して、本部と各支部、会員相互に情報交換できる場を構築したいと思っております。

これらについては、同窓会のあり方検討でござるべく細部を詰めていきたいと考えています。同窓会事業の実施にあたっては、会員の皆様が納めていただく終身会費が主要財源である旨をご理解頂き、会費の完納を重ねてお願い申し上げます。

会費納入状況

15.11.20現在

期別	会員数	完納者数	完納率%	未完納者数				期別	会員数	完納者数	完納率%	未完納者数			
				陸	海	空	計					陸	海	空	計
1	340	321	94	11	6	2	19	25	419	395	94	12	4	8	24
2	359	347	97	8	2	2	12	26	505	466	92	26	7	6	39
3	484	452	93	17	12	3	32	27	388	377	97	8	1	2	11
4	463	435	94	20	7	1	28	28	451	420	93	17	8	6	31
5	528	482	91	26	11	9	46	29	391	357	91	17	7	10	34
6	479	431	90	38	7	3	48	30	410	343	84	48	13	6	67
7	504	460	91	29	7	8	44	31	430	408	95	15	6	1	22
8	466	418	90	35	8	5	48	32	404	354	88	31	13	6	50
9	498	447	90	35	6	10	51	33	448	376	84	45	19	8	72
10	498	451	91	28	9	10	47	34	427	372	87	40	9	6	55
11	495	448	91	28	8	11	47	35	496	477	96	11	5	3	19
12	466	408	88	30	16	12	58	36	354	344	97	6	2	2	10
13	467	399	85	45	11	12	68	37	384	347	90	16	7	14	37
14	491	456	93	20	2	13	35	38	342	267	78	61	10	4	75
15	461	446	97	9	3	3	15	39	361	333	92	8	11	9	28
16	428	403	94	10	4	11	25	40	393	333	85	34	21	5	60
17	497	452	91	20	11	14	45	41	415	373	90	24	15	3	42
18	422	395	94	9	7	11	27	42	417	375	90	20	12	10	42
19	446	412	92	14	18	2	34	43	438	391	89	23	16	8	47
20	383	352	92	17	3	11	31	44	381	189	50	137	51	5	193
21	489	467	96	12	4	6	22	45	351	127	36	157	23	44	224
22	473	410	87	31	9	23	63	46	360	137	38	151	8	64	223
23	414	392	95	8	8	6	22	47	* 352	288	82	8	53	3	64
24	446	413	93	8	18	7	33		389	288	74	32	61	8	101

47期欄*印の項は、幹候校入校者に対する数値である。また、海の未完納者は、12月末手当で納入予定である。

平成16年度 防衛大学校同窓会予算

平成15年11月27日

(単位:円)

項目		16年度予算案	15年度予算	15年度比
収入	会費(48期生)	22,130,000	20,100,000	2,030,000
	預貯金利息	1,380,000	1,184,000	196,000
	同窓会名簿代	0	12,600,000	-12,600,000
	積立金からの繰り入れ	0	0	0
	収入計	23,510,000	33,884,000	-10,374,000
事業経費	事業計画の推進			
	(現職・OB会員交流)	300,000	300,000	0
	(同窓会主催親睦交流会開催)	210,000	210,000	0
	(ホームカミングデーの実施)	300,000	800,000	-500,000
	(会員の出版等支援)	0	50,000	-50,000
	(防大卒業留学生との連携)	200,000	200,000	0
	(全国的な情報網の維持整備)	30,000	100,000	-70,000
	50周年事業(諸支援)	0	300,000	-300,000
	顕彰碑献花式費	300,000	500,000	-200,000
	総会/講演会費	1,100,000	1,500,000	-400,000
	代議員会運営費	600,000	700,000	-100,000
	機関誌発行費	3,400,000	3,300,000	100,000
	同窓会名簿管理(作成)	350,000	11,755,000	-11,405,000
	慶弔費(供花、弔電)	350,000	350,000	0
	同窓会のあり方検討	200,000	0	200,000
	期生会支援費(49期生助成、52期生発会)	200,000	200,000	0
	校友会对外活動等支援費	1,000,000	1,000,000	0
維持管理経費	開校記念祭等支援費	2,000,000	2,000,000	0
	安全保障講座助成金	100,000	100,000	0
	小計	10,640,000	23,365,000	-12,725,000
	同窓会本部の整備	680,000	0	680,000
	小原台支部事務所の整備	100,000	0	100,000
M C (特別会計) 事業	小原台事務局運営費	200,000	200,000	0
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000	0
	本部事務局室賃貸料	2,900,000	2,900,000	0
	事務費	850,000	700,000	150,000
	通信費	450,000	550,000	-100,000
	交通費	400,000	400,000	0
	会議費	600,000	600,000	0
	記念品作成	0	500,000	-500,000
	小計	8,180,000	7,850,000	330,000
	予備費	1,500,000	1,500,000	0
支出	計	20,320,000	32,715,000	-12,395,000
	積立金の繰り入れ	3,190,000	1,169,000	2,271,000
	合計	23,510,000	33,884,000	-10,374,000
	同窓会システムの維持経費(構築及び運用)	140,000	113,200	26,800
支 出	MCI準備室の整備	1,000,000	0	1,000,000
	謝金等	1,800,000	1,400,000	400,000
	通信費及び事務費	150,000	75,000	75,000
	予備費	2,910,000	111,800	2,798,200
	合計	6,000,000	1,700,000	4,300,000

平成14年度 防衛大学校同窓会決算報告

平成15年3月31日

(単位:円)

項目		14年度予算	14年度実施経費	備考
収入	会費(46期生)	18,320,000	9,350,170	
	預貯金利息	371,000	1,383,519	
	積立金からの繰り入れ	8,959,000	18,338,056	
	収入計	27,650,000	29,071,745	
事業経費	事業計画の推進			
	(現職・OB会員交流)	500,000	601,470	
	(同窓会主催親睦交流会開催)	300,000	308,199	
	(ホームカミングデーの実施)	800,000	628,835	
	(防大卒業留学生との連携)	400,000	500,840	
	(全国的な情報網の維持整備)	100,000	28,980	
	50周年事業			
	(記念祝賀会)	2,000,000	2,604,423	
	(地方事業支援)	1,500,000	1,504,030	
	(通品費)	2,000,000	1,660,420	
	(顕彰碑献花費)	500,000	1,964,165	遺族招聘事業の追加
	総会/講演会費	1,500,000	1,092,122	
	代議員会運営費	700,000	796,960	
	機関誌発行費	4,000,000	3,836,314	
	同窓会名簿維持費	250,000	337,637	
	期生会支援費(46期生助成)		100,420	前年度事業の継承
	期生会支援費(47期生助成)	100,000	110,000	
	期生会支援費(50期生発会)	100,000	100,000	
	校友会对外活動助成費	1,000,000	1,200,840	
	安全保障講座助成金	100,000	100,315	
	開校記念祭助成金	2,000,000	2,098,320	
	慶弔費(供花、弔電)	350,000	476,138	
	職員定年退職者記念品費	100,000	121,800	
	計	18,300,000	20,172,228	
	小原台事務局運営費	100,000	600,210	
	事務員雇用費	2,000,000	2,239,000	
	本部事務局室賃貸料	2,900,000	2,823,431	
	事務費	700,000	1,237,901	
	通信費	550,000	395,131	
	交通費	400,000	616,000	
	会議費	700,000	483,424	
	記念品作成	500,000	504,420	
	計	7,850,000	8,899,517	
	予備費	1,500,000	0	
	合計	27,650,000	29,071,745	

期生会長・代議員名簿

期	会長	代議員		
		陸	海	空
1	松村嘉夫 F	元島英海	久保彰	鈴木喜一郎
2	野本恒雄 F	中山隆志	井川宏	野本恒雄
3	岩澤徹 N	亀井浩太朗	松本昭一	山下民夫
4	横地貞 A	常田頼史	向井朗	上川高昌
5	福地建夫 N	三浦天士	小田優秀	宮竹惠哉
6	長谷川重孝 A	野見山昌史	塚原武夫	谷十三生
7	大越兼行 A	若松重英	落合畯	北原彰
8	藤繩祐爾 A	志村隆士	宮田洋二郎	尾頭誠
9	藤田幸生 N	土井義尚	長崎嘉徳	小林貞雄
10	酒巻尚生 A	嶋野隆夫	小田倉光伸	吉沢康信
11	木村忠信 F	内村彰和	吉原征義	赤羽益三
12	先崎一 A	山本公志	上村堯彦	寺田治夫
13	牧本信近 N	関芳雄	平井良彦	花岡芳孝
14	吉田正 F	石井利博	斎藤隆	稻葉憲一
15	道家一成 N	林直人	小林幹生	江口啓三
16	江藤文夫 A	坂元順一	高橋理一	肥後監治
17	永田久雄 F	中尾吉孝	半田謙次朗	永田久雄
18	明比章 N	木下典夫	林章	三輪優三
19	酒井健 A	酒井健	竹口健二	木脇治典
20	佐藤貞夫 A	松川史郎	加藤耕治	土橋一大
21	彌田清 F	安部隆志	田尾輝雄	奥村芳樹
22	宮下寿広 A	小渕信夫	山口透	福井正明
23	岩本豊一 A	湯前剛	畠中孝行	金山寛
24	高橋均 N	櫻木正明	三木伸介	岩成真一
25	高鹿治雄 N	田中良夫	徳丸伸一	吉田浩介
26	屋代建夫 A	神原誠司	大保信一郎	佐々木金也
27	小林茂 A	小林茂	副島尚志	安川隆廣
28	田浦正人 A	田浦正人	畠野俊一	遠目塚進
29	柴田昭市 A	中村浩之	中尾剛久	福岡哲也
30	堀切光彦 A	角謙二	新里勇人	小田紀彦
31	高山博光 A	山根直樹	今村靖弘	常井隆志
32	榎原吉典 F	池田和典	平井良和	榎原吉典
33	中塚千陽 F	山根寿一	真殿和彦	沖野正敏
34	佐藤信知 F	大谷勝司	福田達也	小笠原卓人
35	植森治 F	中迫博文	保科俊明	右田竜治
36	足達好正 A	足達好正	塩崎浩之	泉山正司
37	宇佐見和好 F	小川隆宏	浦口薰	宇佐見和好
38	有馬元 F	森本康介	濱崎真吾	霜田豊英
39	湯下兼太郎 A	湯下兼太郎	平田利幸	竹岡功二
40	岡田和久 N	小澤学	川野邦彦	大石和浩
41	堤田和幸 N	村上淳	小河邦生	中谷大輔
42	武田和克 A	武田和克	森暁代	山口嘉大
43	鎌田淳	澤繁美	戸水竜太	松永善光
44	高橋秀典	鈴木攻祐	阿部直樹	原田理
45	庄司秀明	青山佳史	岡澤智和	坂田靖弘
46	石岡直樹 A	石岡直樹		
47	吉水憲太郎 A			

1. 会長、代議員が交代した時はすみやかに同窓会事務局へ連絡されたい

2. 46、47期の代議員不明（調査中）

防大同窓会総会のご案内

平成15年度同窓会総会を下記のとおり開催致します。
ご出席を賜りたくご案内申し上げます。

記

1 日 時 平成16年3月25日(木) 16:00~20:30

- (1) 総会 16:00~17:20
- (2) 講演会 17:20~18:20
- (3) 懇親会 18:30~20:30

2 場 所 グランドヒル市ヶ谷

新宿区市谷本村町4-1
(TEL. 03-3268-0111)

3 懇親会費 4,000円

参加される方は、同封の返信用はがきにて平成16年2月13日(金)までにお申し込み下さい(欠席の方は、返信不要です。)

平成15年度同窓会行事

平成15年度同窓会行事が次のとおり実施されました。

● 6月20日(金) 臨時代議員会
(グランドヒル市ヶ谷)

下記議案が承認されました。

- 1 記念事業委員会報告
- 2 MCI事業案
- 3 平成14年度決算報告等

● 12月19日(金) 定例代議員会
(グランドヒル市ヶ谷)

下記議案が承認されました。

- 1 平成14年度事業報告、決算報告及び財産目録
- 2 平成16年度事業計画及び予算案
 - ・同窓会のあり方検討
 - ・MCI事業
 - ・会費の納入状況

本部・支部等の役員等紹介

委員会 MC 準備委員会	事務	事務	経理	人事	広報	総務	総務	事務	本部事務局員	会計	理事	理事	副会長	副会長	会長
	同員長	同員長	同員長	同員長	同員長	同員長	同員長	同員長							
員長付			当長	当長	当長	当長	当長	当長	当長	事	事	事	長	長	長
井戸小林	藤湯大新	小佐西	古城伴	新多佐	佐後	清水藤	後藤	新井	尾出二	小赤澤原	長新戸	武藤佐渡			
尚正一英憲雅	森西治谷	佐藤大賀	倉田木	佐々古木	藤木	見川星山	藤川	井田	頭水見	川星山	谷川	田繩伯			
998	12131313	12121212	13131313	12121212	13131313	12121212	13131313	12121212	876	171716	10109	8876			
(陸海空)	(陸空)	(空)	(海)	(陸)	(空)	(陸)	(空)	(陸)							

平成15年度同窓会本部役員

地域支部等役員 (平成15年末現在)	事業企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	企画部	
	小鹿宮	大熊佐	長福	広岡	関北	東	板	沖九	東	北	原	崎	分	本賀	崎	岡
児島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
台地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	ラ
ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ	ブ
萱	萱	楓	後園	澤国	大松田	中久江	鯉	藤山	小工	金	小星	宇石	福村	宮最三	西	新渡牧若
昭	昭	健	八成	清康	一正	義健	賢隆	義弘	祐	山刺	指川	宇橋	山田	崎上	竿井	治辺田木
享	享	憲	隆介	清猛	郎二	人之皓	佳滿	則吉	介久	哲基昌	吉慶	貴善	俊清	健樹	正利	毅橋紀博
19171324617311177612	383639352141303835211715	383639352141303835211715	13101310	(陸)												
(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	(陸)	

地域支部等役員
(平成15年末現在)



(時計台)

防衛大学校同窓会本部連絡先

〒160-0003 東京都新宿区本塩町21-3-2

●局 線 TEL・FAX 03-3351-8910 ●専用線 TEL・FAX 8-6-28895
E/M: ZAN24404@nifty.com又はbodaij@nifty.com